

2018年8月6～7日 ㊦

ヒロシマ、集会、証言・記録

## 原水禁世界大会 「ヒロシマ・アピール」採択し閉会

毎日新聞 2018年8月6日 18時49分(最終更新 8月6日 18時49分)

原水爆禁止日本国民会議(原水禁)と原水爆禁止日本協議会(原水協)の原水爆禁止世界大会が6日、広島市内で閉会した。

原水禁の集会には、約540人(主催者発表)が参加。核兵器のない未来の実現や脱原発、日本政府の核兵器禁止条約の批准、被爆者の権利拡大などを求める「ヒロシマ・アピール」を採択した。

原水協の集会には、約6000人(同)が集まった。核兵器禁止条約発効へ向けた運動の展開や被爆体験の継承などを盛り込んだ決議を採択。会期中には、路線対立で分裂した原水禁の福山真劫(しんごう)・元事務局長が登壇し、「核兵器禁止条約への賛成といった主張が重なる部分では、これからは共闘の時代」と訴える一幕もあった。【関雄輔、隈元悠太】

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

## 禁止条約発効へ共同さらに 原水爆禁止世界大会 ヒロシマデー集会6000人

原爆投下から73回の「原爆の日」を迎えた6日、広島市民らは同市主催の平和記念式典をはじめ市内各地で、原爆が投下された午前8時15分、犠牲者を悼んで黙とうしました。式典での「平和宣言」で松井一実市長は、核兵器禁止条約の発効にむけて、日本政府に「役割を發揮してほしい」と表明。式典には日本共産党の小池晃書記局長ら党代表団が出席しました。原水爆禁止2018年世界大会・広島は、ヒロシマデー集会(閉会総会)を開催。被爆の実相を広げ、禁止条約の発効を求める国際的共同の発展をめざす決意に

あふれ  
ました。

条約サ  
インす  
る政府  
をつく  
ろう

県立  
総合体  
育館で  
開かれ  
たヒロ  
シマデー



(写真) 広島からのよびかけを採択して閉会したヒロシマデー集会=6日、広島県立総合体育館

一集会では、全国から6000人(主催者発表)が参加。市民社会と政府のさらなる共同などを訴える「広島からのよびかけ」(決議)を採択しました。

オーストリアのトーマス・ハイノッチ欧州統合外務省軍縮軍備管理不拡散局長があいさつし、「核兵器禁止条約は“二度と繰り返すな”を確かなものにする具体的な一歩だ」と強調し、「核兵器に関して新しい政治方針を確立できる。その実現は私たち全員にかかっている」とのべました。

東京都原爆被害者協議会の山田玲子副会長は被爆の実相を語り、「力をあわせて核兵器廃絶の日までがんばっていき」と表明。日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の箕牧智之代表理事が「ヒバクシャ国際署名」を広島では県民半数の140万人分を目標にとりくんでいると紹介し、「核兵器廃絶を訴え続けていこう」と訴えました。

英国、ベトナム、韓国、米国の市民代表が、各国政府に禁止条約の批准を求め、国際連帯で条約発効をめざす決意を表明。「被爆国の決意」で、北海道の高校生3人が「私たちの声で世界は変わる」「原爆の恐ろしさを発信し続ける」と発言。東京原水協の代表は、「ヒバクシャ国際署名」を年内100万人を目標にとりくむと語りました。

日本共産党の小池晃書記局長があいさつし、国連での核兵器禁止条約の採択と朝鮮半島での非核化に向けた動きにふれ、被爆者・国民の願いに背き、禁止条約に反対する安倍晋三首相を「どこの国の総理か」と批判。「禁止条約の発効に向けて、『ヒバクシャ国際署名』を広げに広げよう。市民と野党の共闘をすすめて、禁止条約にサインする政府をつくろう」と訴えると大きな拍手が起こりました(詳報)。自由党の小沢一郎代表、参院会派「沖縄の風」の糸数慶子代表、「無所属の会」代表の岡田克也衆院議員のメッセージが紹介されました。オーストリアのファンデアベレン大統領からメッセージが届いたことが紹介されました。

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

## 原水爆禁止世界大会・ヒロシマデー集会 小池書記局長のあいさつ

日本共産党の小池晃書記局長が、原水爆禁止2018年世界大会・ヒロシマデー集会(6日)で行ったあいさつは次の通りです。

参加された皆さんに心から連帯のごあいさつを申し上げます。豪雨災害から1カ月がたちました。私は先月、広島市の東区、安芸区の被災地を回り、被害の深刻さに息をのみました。党議員団一丸となって政府に被災地への全面的な支援を求めてきました。

このような困難のなかで世界大会の開催を可能にしてくださった広島のみなさんに心から感謝を申し上げたいと思います(拍手)。そして、この大会を成功させるために全国、そして全世界から集まった友人のみなさんに熱烈な連帯のあいさつを贈ります。各国政府代表の皆さんの参加は、私

たちへのとても大きな励ましであり、心から歓迎します。

(拍手)

さらに、原発ゼロの運動に加え、「総がかり行動実行委員会」の代表や、辺野古新基地建設反対の「オール沖縄会議」の代表も初めて参加され、新たな共同の広がりを示す大会になったことも大変うれしいことです。(拍手)

# #

この1年、核兵器のない世界へ、情勢も大きく動いています。人類史上初めて核兵器を違法化する核兵器禁止条約が国連会議で採択されて1年が過ぎました。各国による署名、批准が進んでいます。そして6月には長年、厳しく敵対してきた米国と北朝鮮が歴史上初めての首脳会談を行いました。日本共産党は、朝鮮半島の平和と非核化に向けた動きを心から歓迎します。

わずか1年前には一触即発で戦争が起こりかねないという不安が世界を覆っていました。それに比べると大きな変化が生まれています。もちろん米朝両国だけに任せておくわけにはいきません。

この平和のプロセスを後戻りさせることなく前に進めるための根本の力は、平和を求め、核兵器のない朝鮮半島、核兵器のない世界を求める諸国民の世論と運動にほかなりません。(大きな拍手)

# #

そして、この激動のなかで、何よりも被爆国である日本政府の果たすべき役割がかつてなく重要なものとなっています。

広島と長崎での惨禍を通じて、核兵器の非人道性をどの国よりもよく知っているはずのわが国が、北東アジアでも、そして世界でも核兵器廃絶の先頭に立つことが、今ほど求められているときはありません。(拍手)

しかし、安倍政権は核兵器禁止条約に反対し、ヒバクシャの訴えに、国民の願いに背を向けています。

先ほど開かれた平和記念式典でも安倍首相は核兵器禁止条約には一言もふれませんでした(どよめき)。広島市長や市議会議員、県知事、国連事務総長代理まですべての人がふれたなかで、核保有国に気がねして口にもできないのです。私はいいたい、「あなたはどこの国の総理大臣なのか」。

(「そうだ」の声、大きな拍手)

# #

どうすればこれを変えることができるか。ここでも決め



手になるのは世論と運動です。

いまヒバクシャ国際署名が党派を超えて広がっています。地域や自治体ぐるみで署名に取り組む経験も生まれています。少なくとも322の地方議会が核兵器禁止条約への署名、批准を求める意見書を採択しています。これは全国の地方議会の約2割にあたります。日本共産党は国連会議に参加しましたが、ほかの野党も国会で、政府に対して核兵器禁止条約への署名、批准を求めてきました。

市民と野党の共闘を進めるなかで、核兵器禁止条約への日本の参加も野党の共通政策に、いよいよ押し上げていかなければなりません。(拍手)

そしてその共闘をさらに発展させるなら、被爆国にふさわしい役割を果たす日本への道を必ず切り開くことができます。日本共産党は、そのために全力を果たすことをここでお誓いするものです。(拍手)

# #

私は国会議員になる前に東京の病院で被爆者の皆さんの健診活動に取り組んでいました。あるとき、健診にみえた女性が「今までは世間の目があるので被爆者健診は受けませんでした。先日、娘が結婚して独立したので、初めて受ける気持ちになりました」と語られたことは、今でも忘れられません。

原子爆弾は、被爆者の体だけでなく、心だけでなく、人生そのものにも決して修復できない深い傷痕を残します。

核兵器と人類は絶対に共存できません。(大きな拍手)

参加者の皆さん、被爆者の平和への思いを共有し、ともに発信していこうではありませんか。(拍手)

核兵器禁止条約の発効に向けてヒバクシャ署名を広げに広げようではありませんか(拍手)。核兵器に固執する勢力をがんじがらめに包囲しようではありませんか。(拍手)

市民と野党の共闘を進め、核兵器禁止条約にサインする政府をつくり、核兵器のないアジアと世界をつくろうではありませんか。(拍手)

そのことを呼びかけて日本共産党を代表しての連帯のごあいさついたします。

ネバーギブアップ、ともに頑張りましょう。(大きな拍手)

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

**ヒバクシャ署名873万人 連絡会発表 首長は1132人**

ヒバクシャ国際署名連絡会は6日、広島市内で全国交流会を開き、事務局の川崎哲(あきら)さんが「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名(ヒバクシャ国際署名)はこれまでに873万人分が集まった」と発表しました。このうち、知事・自治体首長の署名は1132人です。

連絡会では、年内に1000万を集めることを確認。2020年までに世界で数億人を目標に掲げています。

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

平和の方へ歩き続けよう女性のつどいで経験交流  
広島市内で開かれている原水爆禁止2



(写真) 壇上の海外代表とともに合唱する「女性のつどい」参加者=5日、広島県立総合体育館

018年世界大会の関連行事「2018核兵器なくそう・女性のつどい in ヒロシマ」(主催・同実行委員会)が5日夜に開かれ、1050人が参加しました。核兵器禁止から廃絶へ、被爆者の証言を聞きながら海外代表を交えて交流しました。

新日本婦人の会の笠井貴美代会長が、核兵器禁止条約採択から1年、米朝会談が開かれ、朝鮮半島非核化へ歴史的な扉が開かれた一方で、日本政府は逆行していると批判。「核兵器廃絶に向けてヒバクシャ国際署名を自国で広げることがカギ」と語りました。

沖縄の大学生は、名護市辺野古沖への米軍新基地建設反対のたたかいについて語り、「朝鮮半島の人々は対話と融和を選びました。私たちも粘り強く、平和の方へ歩き続けましょう」と語ると大きな拍手に包まれました。

福島の代表は、東京電力福島第1原発事故・放射能汚染が引き起こした生活の変化などを報告しました。

各地の新日本婦人の会などがヒバクシャ国際署名と憲法を守る取り組みを次々と紹介しました。

広島朝鮮学校の生徒が演舞を披露。台湾、レバノン、モロッコなど多くの代表が平和を求めて女性たちが立ち上がり行動をしていることなどを語りました。

### 核禁止条約の批准を=被爆者団体、安倍首相に要望



首相に要望する広島県原爆被害者団体協議会の坪井直理事長(中央)と県朝鮮人被害者協議会の李憲伯副会長(右)=6日午前、広島市

広島の被爆者7団体は6日、広島市のホテルで安倍晋三首相と面談し、日本が核兵器禁止条約を批准するよう求めた。広島県原爆被害者団体協議会の坪井直理事長(93)は「原爆は人間の悪知恵が作ったもの。われわれが核兵器をなくすような力を発揮しなきゃいけない」と訴えた。

首相は「アプローチは異なるが、条約が目指す核兵器廃絶はわが国も共有している」と説明。「今重要なことは、核兵器国と非核兵器国双方の協力を得る努力を粘り強く続け、実践的な取り組みを進めていくことだ」と述べ、核拡散防止条約(NPT)などによる核軍縮の重要性を強調した。

広島県朝鮮人被害者協議会の李憲伯副会長(83)は、北朝鮮に帰国した被爆者の高齢化を指摘。「在朝被爆者には時間がない。早急に朝日間で被爆者問題を協議し、医療支援を実施すべきだ」と求めた。

同席した外務省の岡本三成政務官は「重要な人道上の問題だと受け止めている。適切に議論したいが、残念ながら現状では難しい」と回答した。(時事通信 2018/08/06-12:11)

### 安倍首相 核兵器禁止条約不参加「変わらない」

毎日新聞 2018年8月6日 11時35分(最終更新 8月6日 12時18分)



被爆者代表から要望を聞く会で、安倍首相に要望を伝える坪井直さん(右から2人目)ら被爆者代表=広島市中区で2018年8月6日午前9時46分、望月亮一撮影

安倍晋三首相は平和記念式典の後、広島市内のホテルであった被爆者7団体の代表らが参加する「要望を聞く会」に出席した。被爆者側からは、被爆国として核兵器禁止条約への署名・批准を求める声が相次いだ。安倍首相は「条約とは考え方、アプローチを異にしている。参加しない考えに変わらない」と不参加を明言した。

核兵器を違法とし、昨年7月に採択された禁止条約では、米国の「核の傘」の下にある日本は交渉にも参加しなかった。安倍首相は「(核兵器廃絶という)ゴールは共有しているが、核保有国の参加が必要だ。橋渡し役を通じ、国際社会をリードしたい」と述べた。また、北朝鮮在住の被爆者の支援については「人道上大切なことだが、北朝鮮と外交関係がなく支援は事実上困難」と述べた。

広島県原爆被害者団体協議会の坪井直理事長は「(唯一の)被爆国がなぜ禁止条約に参加できないのか。今は署名でき

なくても『反対ではない』と世界にメッセージを出すだけでも効果はある」と訴えた。【高山梓、寺岡俊、李英浩】

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

### 「不参加変わらない」 首相 被爆者との懇談後に会見

安倍晋三首相は6日、広島市内で広島被爆者7団体との懇談後に記者会見し、今後も日本政府として核兵器禁止条約に署名・批准しない立場を改めて明言するとともに、日朝首脳会談の開催については現段階で何も決まっていないと述べました。

首相は禁止条約について、「核兵器のない世界を実現するためには核兵器国の参加を得ることが必要不可欠。条約には核兵器国は残念ながら一国も参加していない」と正当化した上で、「わが国としてこれに参加しないとの立場には変わりはない」と断言しました。

また、被爆者との懇談で提起された在朝鮮の被爆者支策について、日朝首脳会談が実現の際には提起する考えはあるかと記者から問われたのに対し、「対北朝鮮被爆者の問題は、重要な人道上の問題だと思うが、日朝首脳会談は現時点で決まっていることは何もない。(北朝鮮との)外交関係がないといった現状を踏まえれば、医療支援を適切な形で議論していくことは事実上困難だ」と発言しました。

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

### 首相に条約署名迫る 広島の被爆者7団体

「国連の場で核兵器禁止条約が



(写真)「被爆者の声を聞く会」に臨む安倍晋三首相(左から2人目)と被爆者7団体の代表(右列) = 6日、広島市

成立したのに日本はなぜサインしないのか」一。広島の被爆者7団体の代表は6日、広島市の平和記念式典後、安倍晋三首相と懇談し、被爆者の願いが実現した核兵器禁止条約への署名・批准を迫りました。

安倍首相は冒頭、「総理大臣として平和記念式典に出席するのは7回目となる。唯一の戦争被爆国として『核兵器のない世界』に向けて粘り強く努力していく」と述べただけで、核兵器禁止条約に一言もふれませんでした。

広島被爆者団体連絡会議の吉岡幸雄事務局長は、「政府は核兵器禁止条約を拒否し、米国の核兵器を容認している。集団的自衛権の行使容認や、憲法改悪も、平和公園の碑文『安らかに眠って下さい 過ちは繰返ませぬから』の誓いに背くものだ」とたたきました。

被爆者7団体は要望書で、米英仏口中の核兵器保有を認めるNPT(核不拡散条約)ばかりが目目され、「誠実に核軍縮交渉を行うべき核兵器保有国の義務がなおざりにされていることは納得できない」と指摘。「核兵器で威圧し合うことは果てしない核軍拡の道を歩むことにしかならない」と強調しています。

広島県原爆被害者団体協議会の佐久間邦彦理事長も、禁止条約への批准を求め、被爆者認定制度や援護制度の抜本的な改善を要求。「原爆投下から73年が経過しても、こうした問題や原爆訴訟が続いている。いかに核が非人道性なものかということを端的に示している」と話しました。

安倍首相は、条約について「核兵器廃絶というゴールは共通しているものの、わが国の考え方やアプローチと異なるものだ。唯一の戦争被爆国として、国際社会の取り組みを主導していく」と従来の説明を繰り返しました。

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

### 広島県被団協(坪井理事長) 追悼式で小池書記局長あいさつ

広島県原爆被害者団体協議会(坪井直理事長)が主催した「被爆73年原爆死没者追悼慰霊式」が6日、広島市で開かれ、日本共産党から小池晃書記局長があいさつしました。



(写真)広島県被団協(坪井理事長)の「追悼慰霊式」で党を代表してあいさつする小池書記局長(正面左から3人目) = 6日、広島市中区

追悼の言葉(代読)で坪井氏は、核兵器禁止条約の採択から1年がたち「平和を考える国が多数を占めている。私たちが、ともに核兵器廃絶運動にいつそう力を注ぎたい」とのべました。

日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳代表委員は、核兵器禁止条約によって「原爆投下から70余年、ついに核廃絶の重い扉が開き始めた。原発も国民の安全を確保するためにはゼロにするしかない」と語りました。

共産党からは、小池氏をはじめ井上哲士、倉林明子の両参院議員、藤野保史衆院議員、広島県委員会の高見篤己(あつみ)常任委員(参院広島選挙区予定候補)、中原洋美広島市議が参加しました。

あいさつした小池氏は、この間の核兵器禁止条約の広が

りなど、「核兵器の脅威を取り除くのは『核抑止論』などではなく、世論と外交の力しかないことを示しています」と指摘。朝鮮半島の情勢についても「平和への歩みを後押しするため力を尽くすときです」と話しました。

小池氏は、原爆症認定基準の見直しと認定行政の改善が必要だと述べ、「超党派で一步でも前に進めていきたい」と語りました。

追悼式では、公明党の山口那津男代表、立憲民主党の枝野幸男代表、国民民主党の大塚耕平共同代表、社民党の福島瑞穂副党首らがあいさつしました。

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

### 広島県被団協 (佐久間理事長) 小池書記局長が懇談



(写真) 懇談する広島県被団協(佐久間理事長)と小池書記局長ら党代表＝5日、広島市中区

日本共産党の小池晃書記局長は5日、広島市

内で広島県原爆被害者団体協議会(県被団協)の佐久間邦彦理事長、吉岡幸雄副理事長、大越和郎事務局長らと懇談し、政府に核兵器禁止条約への署名・批准や、被爆者支援の拡充を求めていくことで一致しました。

県被団協側は、核兵器禁止条約を国政の争点とするために野党の共通政策にしてほしいと要望。安倍晋三首相との懇談に出席してきた吉岡氏は、「唯一の戦争被爆国にもかかわらず、条約や被爆者の要求に全く応えない姿勢に怒りを覚える」と訴えました。

小池氏は、野党の中で核兵器禁止条約への参加を求める動きがあることを紹介し、野党の共通政策にするよう、共に訴えていこうと提起。県被団協側が言及した「被爆者予算」の削減や、放射性物質を含む「黒い雨」を浴びた人が原爆症認定されない問題について、「どれも重要な指摘。原爆症認定行政を後退させようという国の姿勢が見てとれる。超党派で被爆者援護を改善させるとともに、市民と野党の共闘で安倍政権を打倒して、核廃絶に取り組む政府をつくらう」と語りました。

懇談には、藤野保史衆院議員、井上哲士、仁比聡平両参院議員、大平喜信前衆院議員、辻恒雄県議、中森辰一市議らが参加しました。

### 広島原爆の日 禁止条約「日本も批准を」 式典参加外国人

毎日新聞 2018年8月6日 11時45分(最終更新 8月6日 13時34分)



原爆慰霊碑に向かって手を合わせる人々＝広島市中区の平和記念公園で2018年8月6日午前7時2分、久保玲撮影

平和記念式典に合わせて平和記念公園を訪れた外国人からは、昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約の早期発効に期待する声が上がった。条約への参加を見送る日本政府に対し、批准を求める意見もあった。

メキシコ人留学生のオマール・ガリドさん(19)は「原爆資料館を見学した時、悲しみで心がかき乱された」と語った。今年1月に条約に批准した母国の姿勢を評価し、「非核化への一步になれば」と期待した。

スロベニア人の欧州連合(EU)職員、アンドレイ・ブコーブニックさん(40)は、資料館で原爆による被害の大きさに触れ、「一瞬で多くの命を奪う核兵器の使用、保持は許されるべきではない」と改めて認識したという。「日本も含めて多くの国が核兵器禁止条約に批准すべきだ」と語った。

一方、米国から来た大学院生のジョン・フッドさん(28)は「破壊をもたらす核兵器がよいとは思わない」としつつ、「他国も保有する現状で米国が手放すのは難しい」と述べた。【小山美砂、小西雄介】

### 公明・山口代表、日本不参加の核禁止条約の重要性を指摘 朝日新聞デジタル 2018年8月6日 12時29分



山口那津男・公明党代表

山口那津男・公明党代表(発言録)

昨年7月、国連で核兵器禁止条約が採択されたということは、公明党として大局的に大きな意義があると高く評価

している。今は、日本政府は日米安保条約を前提とする安全保障の考え方の下で、この条約に直ちに参加しないと言っている。しかし、唯一の被爆国であるという我が国の立場を考えたときには、この条約の重要性、意義を重く受け止める必要があると思っている。(記者会見で)

## 核廃絶の見通し立たず 禁止条約否定に被爆者厳しく批判

共同通信 2018/8/6 18:56/6 18:57updated



被爆から73年の「原爆の日」を迎え、行われた平和記念式典。手前は原爆ドーム＝6日午前8時15分、広島市の平和記念公園

広島は6日、原爆投下から73年の原爆の日を迎えた。松井一実広島市長は平和宣言で核兵器禁止条約を念頭に政府に対話と協調を進める努力を要求したが、安倍晋三首相は改めて参加を否定。核廃絶の見通しは立たず、被爆者から「政府は口先だけだ」と強い批判の声が上がった。

6月の米朝首脳会談以降、朝鮮半島を巡る緊張状態は一時より緩んだが、北朝鮮の非核化が実現するかは不透明。米国も核兵器の近代化方針を決めるなど核への信奉は根強い。安倍首相も平和記念式典後の記者会見で、核禁止条約に核保有国が参加していないとして「現実的なアプローチで国際社会をリードしたい」と条約に距離を置く。

## 韓国でも原爆犠牲者慰霊 被爆者暮らす南東部の陝川

共同通信 2018/8/6 11:36



韓国・陝川で行われた原爆犠牲者らの慰霊式＝6日(共同)

【陝川共同】広島への原爆投下から73年の「原爆の日」を迎えた6日、被爆者が多く暮らしていることから「韓国のヒロシマ」と呼ばれる韓国南東部・陝川で、原爆犠牲者の慰霊式が開かれた。

韓国の被爆者でつくる「韓国原爆被害者協会」は北朝鮮に暮らす被爆者との交流を目指す趣旨のメッセージを発表

予定。

慰霊式は日本政府の支援で建設され、約100人の被爆者が暮らす「陝川原爆被害者福祉会館」で開催。敷地内に陝川出身の被爆者ら約千の位牌が納められたほこらがあり、周囲に会場が設営された。

## ニューヨークで核なき世界願う 宗教家が集会、25回目共同通信 2018/8/6 11:16



5日、米ニューヨークの教会で開かれた広島、長崎の原爆犠牲者を追悼する集会(共同)

【ニューヨーク共同】広島に原爆が投下された時刻に当たる米東部時間5日午後、ニューヨークの教会で広島、長崎の原爆犠牲者を追悼する集会が開かれた。キリスト教や仏教などさまざまな宗教の指導者が集まり、核なき世界を願って祈りをささげた。

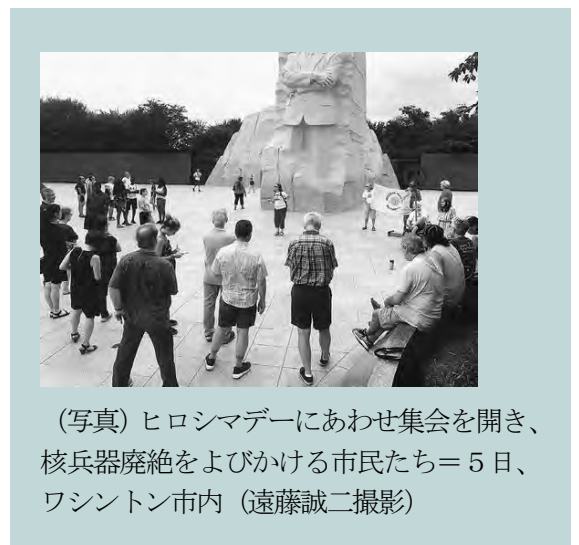
集会はニューヨーク在住の僧侶中垣顕実さんが主催。1994年から毎年開催し、今年で25回目。参加者は原爆が投下された時刻に合わせて鐘を鳴らし「ノーモア、ヒロシマ」「ノーモア、ナガサキ」と訴えた。

13歳の時に広島で家族全員を亡くした被爆者のウエスト森本富子さんは「世界の平和を願い続けてください。私も願い続けます」と呼び掛けた。

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

## 原爆犠牲者に黙とう 全米でヒロシマデー ワシントンでは集会

【ワシントン＝遠藤誠二】73回目の広島原爆投下の日にあわせ全米各地で5日、



(写真) ヒロシマデーにあわせ集会を開き、核兵器廃絶をよびかける市民たち＝5日、ワシントン市内(遠藤誠二撮影)

核兵器廃絶を呼びかけるイベントが取り組まれ、首都ワシントンでは、マーティン・ルーサー・キング牧師の記念広場で市民が集会を開きました。

主催は、首都圏ヒロシマ・ナガサキ平和委員会。原爆が投下された日本時間の6日午前8時15分（ワシントン時間5日午後7時15分）に、同委員会で活動する広島出身の神田貴央氏の呼び掛けで、参加者が原爆犠牲者を悼み、黙とうしました。

集会では、反核団体NIRSのダイアン・ダリゴさんが、「国連で核兵器禁止条約が採択され約1年がたった」と述べ、米国や世界中の人々が核兵器のない世界にむけて連帯することを訴えました。

## 広島 駐日米大使が松井市長と会談、原爆慰霊碑に献花

毎日新聞 2018年8月7日 11時32分(最終更新 8月7日 11時45分)



原爆慰霊碑に献花する米国のウィリアム・ハガティ駐日大使（左）。右は松井一実・広島市長＝広島市中区の平和記念公園で2018年8月7日午前8時57分、久保玲撮影

6日に広島市であった平和記念式典に初めて出席したハガティ駐日米大使が7日、松井一実市長と会談した。ハガティ氏は「トランプ米大統領に広島を訪問し、被爆の実相を見てもらうよう伝える」と話したという。市によると、米国代表は2010年から式典に出席しているが、市長と会談するのは異例。

会談後に取材に応じた松井市長によると、為政者に向け「理性」に基づき核兵器廃絶を求めた平和宣言について説明したのに対し、ハガティ氏は「核兵器なき平和な世界は誰もが望む」とする一方で「現実には北朝鮮やイランの問題があり、取り組みが必要だ」と答えたという。松井市長は核兵器禁止条約の重要性も訴えたが、ハガティ氏は直接言及しなかった。

ハガティ氏は会談後、松井市長の案内で妻子とともに平和記念公園の原爆慰霊碑に献花。松井市長は「今回の広島訪問で核廃絶や平和を願う広島の心を感じてもらえたと思う」と話し、ハガティ氏は子どもたちが原爆資料館を見学したことに触れて「同じ悲劇が起こらないよう次世代の教育に取り組んでいることに感謝する」と応じた。【高山梓】

広島平和宣言（全文）＝原爆忌

73年前、きょうと同じ月曜日の朝。広島には真夏の太陽が照りつけ、いつも通りの一日が始まろうとしていました。皆さん、あなたや大切な家族がそこにいたらと想像しながら聞いてください。8時15分、目もくらむ一瞬の閃光（せんこう）。セ氏100万度を超える火の玉からの強烈な放射線と熱線、そして猛烈な爆風。立ち昇ったきのこ雲の下で何の罪もない多くの命が奪われ、街は破壊し尽くされました。「熱いよう！痛いよう！」つぶれた家の下から母親に助けを求め叫ぶ子どもの声。「水を、水を下さい！」息絶え絶えのうめき声、うなり声。人が焦げる臭気の中、赤い肉をむき出しにして亡霊のごとくさまよう人々。随所で降った黒い雨。脳裏に焼きついた地獄絵図と放射線障害は、生き延びた被爆者の心身をむしばみ続け、今なお苦悩の根源となっています。

世界にまだまだ1万4000発を超える核兵器がある中、意図的であれ偶発的であれ、核兵器がさく裂したあの日の広島の姿を再現させ、人々を苦難に陥れる可能性が高まっています。

被爆者の訴えは、核兵器の恐ろしさを熟知し、それを手にしたいという誘惑を断ち切るための警鐘です。年々被爆者の数が減少する中、その声に耳を傾けることが一層重要になっています。20歳だった被爆者は「核兵器が使われたなら、生あるもの全て死滅し、美しい地球は廃虚と化すでしょう。世界の指導者は被爆地に集い、その惨状に触れ、核兵器廃絶に向かう道筋だけでもつけてもらいたい。核廃絶ができるような万物の霊長たる人間であってほしい」と訴え、命を大切に、地球の破局を避けるため、為政者に対し「理性」と洞察力を持って核兵器廃絶に向かうよう求めています。

昨年、核兵器禁止条約の成立に貢献したICANがノーベル平和賞を受賞し、被爆者の思いが世界に広まりつつあります。その一方で、今世界では自国第一主義が台頭し、核兵器の近代化が進められるなど、各国間に東西冷戦期の緊張関係が再現しかねない状況にあります。

同じく20歳だった別の被爆者は訴えます。「あのような惨事が二度と世界に起こらないことを願う。過去の事だとして忘却や風化させてしまうことがあっては絶対にならない。人類の英知を傾けることで地球が平和に満ちた場所となることを切に願う」。人類は歴史を忘れ、あるいは直視することをやめたとき、再び重大な過ちを犯してしまいます。だからこそ私たちは「ヒロシマ」を「継続」して語り伝えなければなりません。核兵器の廃絶に向けた取り組みが、各国の為政者の「理性」に基づく行動によって「継続」するようにしなければなりません。

核抑止や核の傘という考え方は、核兵器の破壊力を誇示し、相手国に恐怖を与えることによって世界の秩序を維持しようとするものであり、長期にわたる世界の安全を保障するには、極めて不安定で危険極まりないものです。為政

者は、このことを心に刻んだ上で、NPT（核拡散防止条約）に義務付けられた核軍縮を誠実に履行し、さらに、核兵器禁止条約を核兵器のない世界への一里塚とするための取り組みを進めていただきたい。

私たち市民社会は、朝鮮半島の緊張緩和が今後も対話によって平和裏に進むことを心から希望しています。為政者が勇気を持って行動するために、市民社会は多様性を尊重しながら互いに信頼関係を醸成し、核兵器の廃絶を人類共通の価値観にしていかなければなりません。世界の7600を超える都市で構成する平和首長会議は、そのための環境づくりに力を注ぎます。

日本政府には、核兵器禁止条約の発効に向けた流れの中で、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現するためにも、国際社会が核兵器のない世界の実現に向けた対話と協調を進めるよう、その役割を果たしていただきたい。また、平均年齢が82歳を超えた被爆者をはじめ、放射線の影響により心身に苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

本日、私たちは思いを新たに、原爆犠牲者のみ霊に衷心より哀悼の誠をささげ、被爆地長崎、そして世界の人々と共に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすことを誓います。（時事通信 2018/08/06-08:45）

### 「ヒロシマ語り伝える」＝73回目、原爆の日ー核廃絶へ対話と協調を



73回目の原爆の日を迎え、開催された「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」＝6日午前、広島市

広島は6日、73回目の原爆の日を迎えた。広島市中区の平和記念公園では、午前8時から市主催の「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」（平和記念式典）が行われ、被爆者や遺族ら約5万人が参列。松井一実市長は平和宣言で「人類は歴史を忘れたとき、再び過ちを犯す。『ヒロシマ』を継続して語り伝えなければならない」と訴えた。

式典には安倍晋三首相ら政府関係者のほか、85カ国と欧州連合（EU）の代表が参加。核兵器禁止条約の成立に尽力した国連の中満泉軍縮担当上級代表（事務次長）も、昨年に続き出席した。

原爆が投下された午前8時15分には、遺族代表らが「平和の鐘」を打ち鳴らし、1分間の黙とうをささげた。



平和宣言を読み上げる広島市の松井一実市長＝6日午前、広島市中区の平和記念公園

市長は宣言で、「核抑止や核の傘という考え方は、長期にわたる世界の安全を保障するには、極めて不安定で危険極まりない」と指摘。世界の政治指導者に対し、「NPT（核拡散防止条約）に義務付けられた核軍縮を誠実に履行し、核兵器禁止条約を核兵器のない世界への一里塚とするための取り組みを進めてほしい」と求めた。

日本政府には「国際社会が核兵器のない世界の実現に向けた対話と協調を進めるよう、役割を果たしてほしい」と要望した。

安倍首相はあいさつで「核兵器国と非核兵器国の橋渡しに努め、国際社会の取り組みを主導していく決意だ」と述べた。

式典では市長と遺族代表が、この1年間に死亡が確認された5393人の名前を記した原爆死没者名簿を慰霊碑に納めた。犠牲者は31万4118人となった。厚生労働省によると、被爆者健康手帳を持つ人は今年3月末時点で全国に15万4859人。平均年齢は82.06歳で、昨年より0.65歳高くなった。（時事通信 2018/08/06-08:45）

### 被爆73年、広島で5万人参列 首相は核禁止条約触れず 朝日新聞デジタル宮崎園子 2018年8月6日13時50分



平和記念式典で献花する子どもたち＝2018年8月6日午前8時11分、広島市中区、上田幸一撮影

広島は6日、被爆73年となる「原爆の日」を迎えた。広島市中区の平和記念公園で午前8時から平和記念式典が開かれ、原爆投下時刻の8時15分に参列者が黙禱（もくとう）した。広島市の松井一実（かずみ）市長は「平和宣言」を読み上げ、昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約に言及。核兵器のない世界の実現に向けて国際社会に対話と協調を促す役割を日本政府に求めた。これに対し、安倍晋三首相は昨年に続き、あいさつで条約に触れなかった。



核禁条約をめぐるっては、採択の牽引（けんいん）役を担った国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN（アイキャン））が昨年ノーベル平和賞を受賞。今月5日までにメキシコやオーストリアなど計14カ国が批准した。「唯一の戦争被爆国」を掲げる日本政府の対応が注目されてきたが、条約の交渉会議に参加せず、採択時に反対票を投じている。

安倍首相はこの日の式典あいさつで「近年、核軍縮の進め方について、各国の考え方の違いが顕在化している」と指摘。日本政府として非核三原則を堅持し、核兵器国と非核兵器国の橋渡しに努め、国際社会の取り組みを主導するとの決意を述べた。

朝鮮半島情勢めぐり南北首脳会談、米朝首脳会談が続いたことで、松井市長は緊張緩和が対話により進むことに期待を寄せた。

式典には被爆者や遺族ら約5万人（市発表）が参列。核保有国では米、英、仏、ロシアを含む85カ国の駐日大使らが参列したが、中国や北朝鮮は欠席した。

式典では、原爆死没者慰霊碑にこの1年で死亡が確認された広島での被爆者5393人の名前が新たに奉納され、死没者は計31万4118人となる。松井市長は平和宣言で「年々被爆者の数が減少する中、その声に耳を傾けることが一層重要」と訴えた。（宮崎園子）

**広島原爆の日 被爆地「核廃絶」要求、「現実論」政府と溝**  
毎日新聞 2018年8月6日 22時11分(最終更新 8月7日 02時47分)



平和宣言をする松井一実・広島市長＝広島市中区の平和記念公園で2018年8月6日午前8時24分、久保玲撮影  
広島は原爆投下から73回目の「原爆の日」を6日、迎えた。平和記念式典の平和宣言で松井一実・広島市長は核大国の抑止論を批判し、核兵器禁止条約を「核廃絶への一里塚」として、発効への取り組みを日本政府に求めた。しかし、安倍晋三首相は式典直後に禁止条約への不参加を改めて表明。被爆体験に立脚する被爆地と、国際社会の「現実論」を唱える政府との溝が浮き彫りになっている。

式典には被爆者や遺族ら約5万人が集い、核保有5大国からは中国を除く米露仏英が出席。原爆が投下された午前

8時15分に1分間黙とうした。松井市長と遺族代表はこの1年に死亡した5393人の名前を記した死没者名簿を原爆慰霊碑に納め、名簿の人数は計31万4118人となった。

松井市長は平和宣言で「世界では自国第一主義が台頭し、核兵器の近代化が進められるなど冷戦期の緊張が再現しかねない」と表明。「米国第一」を掲げ、核戦力増強を表明した米トランプ政権を意識したものとなった。広島県の湯崎英彦知事は「隣家を吹き飛ばす爆弾を仕掛け合う」という例えを用い、「大人は子供たちに説明できるのか。核抑止のくびきを乗り越えるべきだ」と訴えた。

ただ、昨年7月に採択された禁止条約の批准国は現在14カ国・地域で、発効に必要な50カ国・地域に遠く及ばない。被爆2世の松井市長は、条約発効に向けて慎重な言い回ししながら政府に努力を求め、グテレス国連事務総長は式典に寄せたメッセージで「条約採択は、強い国際的支持の存在を示した」と訴えた。

これに対し、安倍首相はあいさつで「唯一の戦争被爆国として『核兵器のない世界』の実現に向け努力を重ねる」と表明したが、「核軍縮を巡る考え方の違いが顕在化している」と指摘。核保有国との「橋渡し役」になると強調し、核兵器を違法とする禁止条約には言及しなかった。

安倍首相は式典後の被爆者団体との会合に参加。広島県原爆被害者団体協議会の坪井直理事長（93）は「人類が作った核兵器は、人類の力で廃絶しなければいけない」と話すなど、禁止条約への署名・批准を求める意見が相次いだ。ただ、安倍首相は記者会見で「禁止条約とはアプローチを異にし、参加しない立場は変わらない」と明言。岡本三成外務政務官も「現実的対応をする」と、あくまで核保有を5大国に限定する核拡散防止条約（NPT）の下で核軍縮を目指す姿勢を示した。【高山梓、寺岡俊】

産経新聞 2018.8.6 11:40 更新

**広島 被爆から73年の「原爆の日」 犠牲者の冥福を祈り、「核兵器のない世界」へ誓い新たに**



平和記念式典に参列したハガティ駐

日米大使＝6日午前、広島市の平和記念公園

広島は6日、被爆から73年の「原爆の日」を迎えた。広島市中区の平和記念公園では午前8時から「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」（平和記念式典）が営まれ、参列者が犠牲者の冥福を祈り、「核兵器のない世界」への誓いを新た

にした。

式典には、被爆者や遺族代表をはじめ、安倍晋三首相のほか、過去3番目に多い85カ国と欧州連合（EU）代表部の大使らが参列した。米国からはハガティ駐日大使が参列。駐日大使の参列は3年ぶり、トランプ政権になってからは初めてとなった。

原爆投下時刻の8時15分に遺族代表らが「平和の鐘」を打ち鳴らし、参列者全員で黙祷した。

松井一実市長は平和宣言で「世界では自国第一主義が台頭し、核兵器の近代化が進められるなど、各国間に東西冷戦期の緊張関係が再現しかねない状況にある」と指摘した。そして「だからこそ私たちは『ヒロシマ』を『継続』して語り伝えなければならない」と呼びかけた。

安倍首相はあいさつで「近年、核軍縮の進め方について、各国の考え方の違いが顕在化している」との認識を示した。その上で「核兵器のない世界」を実現するためには「被爆の悲惨な実相の正確な理解を出発点として、核兵器国と非核兵器国双方の協力を得ることが必要だ」として、日本が双方の「橋渡し」に粘り強く努める決意を述べた。

式典では、松井市長と遺族代表が、この1年間に亡くなった、死亡が確認されたりした5393人の名前が書かれた原爆死没者名簿を原爆慰霊碑の石室に納めた。これまでに記帳された被爆死没者の総計は計31万4118人となった。

全国の被爆者健康手帳の所持者数の減少と高齢化はさらに進んだ。所有者数は平成29年度末で15万4859人と過去最少で、平均年齢は昨年度末に比べ0・65歳高い82・06歳で最高を更新した。

「参列は最後」91歳の遺族女性、夫が語った「水」の話  
朝日新聞デジタル松崎敏朗 2018年8月6日13時36分



夫の守福さんの遺影を手に平和記念式典に参列した太田康子さん＝2018年8月6日午前7時23分、広島市中区、松崎敏朗撮影

6日の平和記念式典には、各都道府県から遺族の代表も参列した。最高齢で沖縄県代表の太田康子さん（91）＝沖縄市＝は、「鉄の暴風」と呼ばれた沖縄戦で自宅を焼かれ、兄も失った。この日は、出稼ぎ中に広島で被爆した夫を悼

み、「二度と戦争が起きませんように」と静かに手を合わせた。

「機械を動かそうと準備した時に光が走った」。夫の守福（しゅふく）さんは73年前の8月6日、出稼ぎのため広島市の工場で旋盤工として働いていた時に被爆。幸いけがはなかった。2013年に91歳で亡くなった守福さんは生前、「川に遺体が浮かび、けが人からは水を求められた」と康子さんに語っていた。

一方、康子さんは、第2次大戦で兄2人と、おい4人を亡くした。

うち兄の一人は、住民や日米両軍合わせて約20万人が亡くなった沖縄戦で米軍の捕虜になり、銃殺されたという。康子さんも、自宅を焼かれ、避難した山にも火を放たれ、逃げ惑った。

約2カ月後、米軍の捕虜となり、収容所で5カ月ほどテント生活を送った。食料は、2、3日に1度、缶詰が与えられるのみ。水田に生えた草も口にし、わずかな食べ物で命をつないだ。ひもじく、みじめな思いは今でも忘れない。

式典は4年ぶりに参列した。康子さんは、市民の代表が原爆死没者慰霊碑に水を供える姿を見て、涙が出たという。「あの日、多くの人が水を求めていたと夫から聞いたことを思い出した」

今回も孫の守史（もりちか）さん（33）が付き添った。康子さんは「もう高齢なので、これが最後だと思う。この場所で、戦争も核兵器もない世界を祈ってほしい」と話していた。（松崎敏朗）

被爆者の思い「未来へ」 子ども代表、平和への誓い  
朝日新聞デジタル田中瞳子 2018年8月6日13時25分



平和への誓いを読み上げる子どもたち＝2018年8月6日午前8時30分、広島市中区、小林一茂撮影

「73年前の事実を、被爆者の思いを、私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります」

子ども代表として6日の式典で「平和への誓い」を読み上げた広島市立牛田小6年の新開美織（みおり）さん（12）と、市立五日市東小6年の米広優陽（ゆうひ）さん（12）は、「未来に伝える」決意を誓いに込めた。

新開さんは、被爆10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さん（当時12）のことを本や証言で学び、「原爆の悲惨な記憶や平和への思いを伝えていきたい」と感じた。

米広さんは、慰霊碑を巡ったり被爆者の証言を聴いたりして、「これからは自分たちの世代が原爆の事実を語り継がないといけない」と思うようになった。

式典後、新開さんは「ゆっくりでもいいから、平和について受け継ぎ、つなぎ、語り継いでいきたい。きょうの誓いが、一人でも多くの人が平和について考えるきっかけになったらいい」と話した。(田中瞳子)

### 「私たちが伝承者になります」平和への誓い全文

朝日新聞デジタル 2018年8月6日 13時25分



平和への誓いを読み上げるこども代表の新開美織さん(右)と米広優陽さん=2018年8月6日午前8時30分、広島市中区、小林一茂撮影

6日午前広島市で開かれた平和記念式典で、子どもたち代表が読み上げた「平和への誓い」は次の通り。



人間は、美しいものをつくることができます。  
人々を助け、笑顔にすることができます。  
しかし、恐ろしいものをつくってしまうのも人間です。  
昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。  
原子爆弾の投下によって、街は焼け、たくさんの命が奪われました。

「助けて」と、泣き叫びながら倒れている子ども。  
「うちの息子はどこ」と、捜し続けるお父さんやお母さん。  
「骨をもうください」と頼む人は、皮膚が垂れ下がり、腕の肉が無い姿でした。  
広島は、赤と黒だけの世界になったのです。  
73年が経ち、私たちに残されたのは、血がべっとりついた少女のワンピース、焼けた壁に記された伝言。  
そして今もなお、遺骨の無いお墓の前で静かに手を合わせる人。  
広島に残る遺品に思いを寄せ、今でも苦しみ続ける人々の話に耳を傾け、  
今、私たちは、強く平和を願います。  
平和とは、自然に笑顔になれること。  
平和とは、人も自分も幸せであること。  
平和とは、夢や希望をもてる未来があること。  
苦しみや憎しみを乗り越え、平和な未来をつくろうと懸命に生きてきた広島の人々。  
その平和への思いをつないでいく私たち。

平和をつくることは、難しいことではありません。  
私たちは無力ではないのです。  
平和への思いを折り鶴に込めて、世界の人々へ届けます。  
73年前の事実を、被爆者の思いを、  
私たちが学んで心に感じたことを、伝える伝承者になります。

平成30年(2018年)8月6日

こども代表

広島市立牛田小学校6年 新開美織(みおり)

広島市立五日市東小学校6年 米広優陽(ゆうひ)

### 家族の物語、いま英語で 生後すぐ被爆したマツダ元社員

朝日新聞デジタル宮崎園子 2018年8月6日 20時34分



荒木史子さん=2018年8月3日午後、広島市中区、上田幸一撮影



生後4カ月で被爆した73歳の女性が6日、初めて公の場で家族の被爆体験を語った。大企業の海外畑で仕事一筋だった頃、原爆と正面から向き合うことはなかった。各地から広島を訪ねる外国人が増え、英語で伝えたいと心が動いた。

「語られていない家族の物語がたくさんあると思います。が、これもその一つです」

広島市中区の荒木史子さんはこの日、外国から訪れた人たち約300人を前に流暢(りゅうちょう)な英語で語りかけた。マツダ(本社・広島県)に33年間勤務し、海外

広報の担当が長かった。

原爆投下当時、生後4カ月。両親と3人で舟入幸町（現・広島市中区）の自宅にいて被爆。自宅は崩れたが、命は助かった。

市立中（現・市立基町高）1年の兄・博さん（当時12）は朝早く家を出て、爆心地から約1キロの建物疎開の作業に向かっていた。

荒木さんをおぶった母と父は1週間、兄を捜し歩いたが見つからなかった。作業場所の近くの焼け野原で「舟入幸町」「荒木博」と書かれた木の名札が砂をかぶっていた。中学に上がった頃、父が書いたものだ。

「ぼくはここにいるよ。もうすぐお別れだ。お父さん、お母さんさようなら」という兄のメッセージだったように感じた。兄の写真は残っておらず、遺骨もない。両親は名札を仏壇に置き、ただ一つの形見として大事にした。この日の証言にも顔すら知らない兄の唯一の遺品として持参した。

荒木さんにとって被爆は一言で言い得ぬものだ。10代の頃、打撲の痕が残ったら白血病を疑った。20代半ば、広島出身と知ったお見合い相手からは、原爆による放射線の影響を受けてないかと尋ねられた。被爆者であるという事実は、積極的に向き合いたいことではなかったという。

「私にでもできることがあるかもしれない」と思うようになったのは最近のこと。広島を訪れる外国人は年々増えるが、英語で証言できる被爆者は少ない。友人からも背中を押された。被爆者を「犠牲者」ととらえてきたが、「生き抜いた人」なんだ、と覚悟が決まった。

原爆の日は毎年、平和記念公園で献花をし、兄の学校の慰霊碑を訪ねる。今年は初めて、引き取り手のない遺骨が眠る原爆供養塔に行き、兄を思って庭の花を供えた。（宮崎園子）

**野球愛し、原爆語ってくれた亡き祖父へ 広陵捕手の誓い**  
朝日新聞デジタル新谷千布美 2018年8月6日 10時29分



宿舎の前で黙禱を捧げる広陵の鉤流大遂君＝2018年8月6日午前8時15分、大阪府池田市、新谷千布美撮影



広島原爆の日の6日、第100回全国高校野球選手権記念大会に出場している広陵（広島）の選手らが、原爆投下と同時刻の午前8時15分、大阪府池田市の宿舎「マスマ荘」の前で広島の方角を向いて整列し、黙禱（もくとう）を捧げた。捕手の鉤流（つりゅう）大遂（ひろみち）君（2年）は、原爆について話してくれた野球好きの亡き祖父を思い、甲子園での活躍を誓った。

鉤流君の祖父の上田龍晴（たつはる）さんの左腕には10センチほどの古傷があった。「原爆での」。鉤流君が小学生のころ、龍晴さんが5歳の時の話をしてくれた。「山の向こうでピカと光ったかと思うと、家の窓ガラスが全部割れて、腕に刺さったんよ」。数時間後には、爆心地からおおよそ10キロのところにあった龍晴さんの家の前に、やけどを負い、水を求める人がぞろぞろと列をなしたという。

夏になると、テレビで甲子園を見ていた龍晴さん。鉤流君は11年前、6歳の夏と一緒に見た決勝を覚えている。八回裏に佐賀北に逆転満塁本塁打を浴び、広陵が惜敗した激戦。祖父は「ええのお、この子ら。甲子園でこんな試合ができれば、一生の財産になるのお」とつぶやいた。鉤流君はそれから野球に憧れるようになり、小学4年の時から地元の少年野球クラブに入った。「費用はわしが出すけえ」。背中を押してくれた龍晴さんは3年前、75歳で帰らぬ人となった。

鉤流君は広島大会で正捕手として活躍。4人の投手の特長を生かし、継投を支えてきた。『「広島人」』として、原爆のことは忘れない。その上で、広陵の選手として日本一を目指します。その姿を、じいちゃん絶対見ているから」

広陵は大会第8日第1試合で二松学舎大付（東京都）と対戦する。（新谷千布美）

**原爆の生き証人「被爆樹木」の保存支援へ 国が初の予算**  
朝日新聞デジタル黒田壮吉 2018年8月6日 10時15分

73年前の原爆の熱線や爆風、放射線による被爆の跡が残る「被爆樹木」の保存に向け、厚生労働省が支援にのりだす方針を決めた。樹木の保存に取り組む広島、長崎両市を補助する費用を来年度予算案に盛り込む。国が被爆樹木に予算をつけるのは初めて。

「原爆の生き証人」とも言われる被爆樹木。広島市の平和記念公園にある「被爆アオギリ」や、長崎市の山王神社にある「被爆クスノキ」が有名だが、枯れて伐採されるなど危機に直面するものもある。厚労省は樹木が弱らないよう支援をしていく。

広島市は、爆心地から半径約2キロ以内の161本を被爆樹木に認定。長崎市には、爆心地から半径約4キロ以内に46本あるという。両市では、樹木医が巡回するなどし、「治療」や土壌改良を進めている。（黒田壮吉）

平成最後の8月6日へ、空を見上げて 被爆73年  
朝日新聞デジタル 2018年8月6日 09時31分



73年前の

あの日に思いをはせて空を見上げる参加者ら＝2018年  
8月5日午前8時22分、広島市中区、大滝哲彰撮影



日付が変わり、被

爆から73回目の「8月6日」が始まった＝6日午前0時  
過ぎ、広島平和記念資料館、高橋俊成撮影

広島は6日、被爆73年となる「原爆の日」を迎えた。  
「あの日もこんなに暑かったのかな」「原爆ドーム前に来ると被爆した恩師たちに会えるような気がする」――。被爆地は前日から明け方にかけて、鎮魂の祈りに包まれた。

あの瞬間に思いはせ（前日の8：15）

5日午前8時15分。1日早い原爆投下時刻に合わせ、投下目標となった広島市中心部の相生橋に20人近くが集まった。あの瞬間に思いをはせ、空を見上げた。

広島市の芸術家グループ「プロジェクト・ナウ！」が主催したイベント「みあげる」。札幌市から参加した大学4年の土門寛治さん（22）は「平成最後の夏にこの場所にいられる。73年前も、こんなに暑かったのかな」と感慨深そうに話した。

相生橋に近い平和記念公園の北端で午後3時、被爆者の土居光子さん（75）が愛知県と沖縄県から訪れた中高生に自身の母の体験を語った。「市電に乗っていると地響きのような音が聞こえ、ガラスがバリバリと割れました。そーっと顔を上げると、黒い制服の運転手の背中が赤黒く染まり、バタッと倒れてきた。頭の前からつままで、ガラスが突き刺さっていました」。中高生らは息をのんだ。

同じころ、中満泉・国連軍縮担当上級代表が広島市役所を訪問し、松井一実・広島市長に面会。中満さんは「国連

にとって核軍縮はDNAの一部。核軍縮に向けた私たちのコミットメントを確認し、世界に発信したい」と話した。平和監視時計、投下から2万6663日に（0：00）

午前0時。広島平和記念資料館にある「地球平和監視時計」の数字が静かに切り替わった。「原爆投下からの日数」は「26663」に。被爆から73回目の「8月6日」が始まった。

真夜中の平和記念公園には、若い女性3人がいた。東京都世田谷区の会社員阿部仁美さん（27）は「東京にいると、戦争や原爆について考える機会はあまりない。だからこそ、この時間にこの場所で過ごすことには大きな意味がある」。知人で千葉県いすみ市の翻訳業森川梨江さん（25）は「8月6日に来るのは初めて。深夜の公園と式典の準備を見て、今まで見えなかったものが見えてきた」と話した。「恩師の先生たちに会いに」（4：00）

午前4時、愛知県から毎年訪れるという横江英樹さん（55）は原爆ドーム前を訪れた。7歳の孫も一緒だ。高校まで暮らした広島では、恩師に被爆者が多かった。いつか分かってくれば、と孫に原爆の悲惨さを語り継ぎたいと思っている。「ここに来ると先生たちにも会えるような気がする」

空が明るくなり始めた午前5時過ぎ、広島市南区の前原光子さん（79）は原爆死没者慰霊碑近くのベンチに座り、涙ぐんだ。当時6歳。広島県安芸高田市にいて、遠くの空にピカッと光るものを見た。翌日から運ばれてきた負傷者を看病した。死者は、近くの運動場に穴を掘って重ねて焼いていた。「見ていられなかった。原爆の恐ろしさを若い子たちにわかってほしいんよ」

（大瀧哲彰、土屋香乃子、高橋俊成、半田尚子）

### 平和の願い次代へ 広島、平成最後の「原爆の日」

日経新聞 2018/8/6 12:05

平成最後の8月6日は、73年前と同じ澄み切った青空が広がっていた。広島街全体が鎮魂の祈りに包まれた「原爆の日」。被爆者は戦争の悲惨さを伝える大切さを見つめ直し、子や孫は平和への思いを受け継ぐ決意を新たに。平和の鐘が鳴り響く中、記念式典に参加した人らは核兵器のない世界が訪れることを願いつつ「二度と惨禍を繰り返さない」と誓った。



平和記念式典に出席した被爆者代表の井上エミ子さん（6日午前、広島市の平和記念公園）



平和記念式典に出席した遺族代表の上峠（うえたお）賢太さん（6日午前、広島市の平和記念公園）



早朝から原爆ドームに向かい祈りをささげる人たち（6日未明、広島市中区）



千羽鶴と共に平和を祈る（6日未明、広島市）



原爆慰霊碑に献花する人たち（6日午前、広島市の平和記念公園）



式典で黙とうする人たち（6日午前、広島市の平和記念公園）

■「苦しむ表情 脳裏に」 被爆者代表の井上エミ子さん（79）

広島市の被爆者代表に選ばれた井上エミ子さん（79）は喪服姿で式典に出席。献花台に花を手向けた後、「戦争がない平和な世界が続いてほしいとの願いを込めた」と静かに語った。

6歳の時、姉と爆心地から約7キロ離れた地点にある叔父宅に向かう途中、原爆が落ちた。幼い頃に両親を亡くした井上さんにとって、叔父は父親のような存在。しかし、帰宅した叔父は全身に大やけどを負い、1カ月半後に亡くなった。思い出はほとんど記憶にないが、「苦痛にゆがむ表情だけは今も脳裏に焼き付いている」と振り返る。

「被爆者として何か力になれないか」。戦後、地元の被爆者団体に参加し、被爆体験の伝承に取り組んできた。約8年前に代表に就任。メンバーの高齢化が進む中、自身も何度か代表を退こうと考えたが、「自分が辞めたら会自体が消えてしまう」と思いとどまった。次世代に戦争の悲惨さを受け継ぐとの決意に揺らぎはなく、被爆者代表の要請も受け入れた。

原爆投下から73年。井上さんは「家族でご飯を食べたり遊んだり。幸せな世の中になった」と実感を含めて語り、言葉を継いだ。「核兵器がない世界を実現するために何ができるのか。平成という時代が終わりを迎えるなか、もう一度、自分自身を見つめ直したい」

■「息子らに語り継ぐ」 遺族代表の上峠賢太さん（33）

生まれたときから一緒に暮らしてきた2人の「おじいちゃん」は、いつも笑顔だった。遺族代表で広島市中区の上峠賢太さん（33）は、80代で亡くなった曾祖父と祖父への思いを胸に平和の鐘を鳴らし「若い世代の無関心を変える気持ちで臨んだ」と力を込めた。

母方の曾祖父、丸田行雄さんは2000年に、祖父の寿美さんは14年に亡くなった。健康で元気な姿は記憶に残るが、生前の2人が被爆体験を語ることはなかった。

行雄さんの葬儀の際、家族から初めて知らされた。行雄さんは原爆で背中にやけどを負い、痛みのため毎晩うつぶせで寝ていたこと。寿美さんは負傷したが命をとりとめたこと。「どこで被爆したの?」。寿美さんに問うと、沈黙が続いた。「もうやめにしてくれよ」という心を感じた。

「嫌がられても、もっと聞いておけばよかった」と後悔は今も残る。遺族代表を市から打診された際も「被爆体験の多くを知らない自分でもいいのか」と悩んだが、2人に背中を押された気がし、大役を引き受けた。

14年に結婚し、翌年に長男が生まれた。同世代の友人らと原爆について深く語り合っただけでこなかったのも事実だが、「自分が発信することで、同世代、そして息子たちの世代に広島島の惨禍を語り継ぎたい」と考えている。

### 【写真特集】広島、73回目の祈りの日

日経新聞 2018/8/6 11:00

広島は6日、被爆から73回目の原爆の日を迎えた。広

島市の平和記念公園には早朝から多くの人を訪れ、犠牲となった家族や友人を悼んだ。「あの日」を生き抜き、戦後、平成という時代を支えてきた被爆者は子や孫の平和な未来を祈った。



原爆慰霊碑に向かい犠牲者の冥福を祈る人たち(6日午前、広島市の平和記念公園)



早朝から祖父と一緒に原爆ドームを訪れ、祈りをささげる子ども(6日未明、広島市中区)



原爆犠牲者の冥福を祈るため、原爆慰霊碑に向かう人たち(6日午前、広島市の平和記念公園)



慰霊碑に並ぶ人たち(6日午前、広島市の平和記念公園)



慰霊碑の前に手向けられた花束(6日午前5時52分、広島市)



平和記念式典で黙とうする参列者(6日午前、広島市の平和記念公園)



平和記念式典で「平和の鐘」を突く子どもの代表（左）と遺族代表（6日午前、広島市の平和記念公園）



原爆投下時、多くの負傷者が運ばれた広島県坂町の原爆慰霊碑の前で黙とうする人たち（6日午前）



広島平和記念資料館東館に展示されたオバマ前米大統領が寄贈した折り鶴（6日午前、広島市）



広島平和記念資料館東館に展示されたノーベル賞のメダルのレプリカ（6日午前、広島市の平和記念公園）  
（小川望、山本博文、目良友樹撮影）

### 核廃絶取り組み継続訴え 広島、73回目「原爆の日」

日経新聞 2018/8/6 6:30 (2018/8/6 9:20 更新)

広島は6日、被爆から73回目の「原爆の日」を迎えた。世界では核軍縮に向けた機運が高まるが、国際関係には緊張感が漂う。広島市の平和記念公園で開かれた「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」（平和記念式典）では、松井一実市長が理性に基づく核廃絶の取り組み継続を求めた。



原爆ドーム（旧広島県産業奨励館）（広島市）

平成で最後となる原爆の日の式典には被爆者、遺族、安倍晋三首相ら約5万人が参加。世界からは85カ国と欧州連合（EU）の代表者が出席した。2015年の100カ国、16年の91カ国に次いで過去3番目に多い。原爆投下時刻の午前8時15分には平和の鐘が鳴らされ、参列者が1分間の黙とうをささげた。

松井市長は核兵器を巡る世界情勢について「自国第一主義が台頭し、各国間に東西冷戦期の緊張関係が再現しかねない状況にある」と指摘。「世界の指導者が被爆地に集い、その惨状に触れ、核兵器廃絶に向かう道筋だけでもつけてもらいたい」という被爆者の願いを紹介した。

17年7月、核兵器の開発や使用、保有を禁じる核兵器禁止条約が国連本部で採択された。条約の成立に貢献した非政府組織（NGO）「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）は同年のノーベル平和賞を受賞し、松井市長はICANの受賞を「被爆者の思いが世界に広まりつつある」と評価した。

一方、唯一の被爆国である日本が条約に参加していない現状を踏まえ「日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現するためにも、国際社会が核兵器のない世界の実現に向けた対話と協調を進めるようその役割を果たしてほしい」と訴えた。

安倍首相は非核三原則を堅持しつつ粘り強く核兵器国と非核兵器国双方の橋渡しに努めるとし「国際社会の取り組みを主導していく決意だ」とあいさつした。核兵器禁止条約には昨年につき触れなかった。「核拡散防止条約（NPT）の発効50周年となる20年のNPT運用検討会議が意義あるものとなるよう積極的に貢献する」と語った。

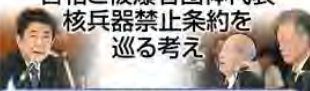
9日には長崎市で「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典（平和祈念式典）」が開かれる。国連のグテレス事務総長が、現職の事務総長として初めて長崎の式典に出席。核軍縮の必要性を改めて訴える。

〈つなぐ 戦後73年〉祈りと怒りの原爆忌 首相、核禁止条約なお「不参加」

東京新聞 2018年8月7日 朝刊



**首相と被爆者団体代表  
核兵器禁止条約を  
巡る考え**



わが国の考え方とアプローチを異にしている。条約には参加しない立場に変わりはない(記者会見で)

各国政府と市民の努力が実った。条約署名、批准の努力を強く求める(吉岡幸雄・広島被爆者団体連絡会議事務局長。「要望を聞く会」で)

核兵器(保有)国と非核兵器国双方の橋渡しに努める。具体的取り組みとして、昨年、核軍縮に関する賢人会議を開催した(平和記念式典あいさつ)

賢人会議での議論は必要だが、政府が禁止条約(に賛成)の立場に立たない限り、会議そのものに意味がないものになる(佐久間邦彦・広島県原爆被害者団体協議会理事長。記者団に)

安倍晋三首相は六日、広島市で行われた平和記念式典に出席した後、被爆者団体の代表者らと面会した。代表者らは核兵器開発や使用を全面的に禁じた核兵器禁止条約について「私たち被爆者をはじめ、市民の努力が実った」として、日本政府も参加するよう求めた。首相は参加しないと明言した。これまでも首相との面会で、集団的自衛権の行使容認撤回などを求めてきた被爆者たち。この日も平和を求める思いは首相に届かず、怒りと失望が広がった。(山口哲人、川田篤志)

首相に条約への参加を求めたのは、広島被爆者団体連絡会議の吉岡幸雄事務局長。「日本政府は禁止条約に反対し、署名も批准も拒否している。国民多数の意思に背き続けることはできない。条約に署名し、批准への努力を強く求め」と迫った。さらに「私はこれまでもこの席で、安倍内閣の集団的自衛権の容認や憲法改悪の主張に対し、抗議して撤回を求めた」と強調した。

首相との面会后、吉岡氏は記者団に「われわれの要望に全然聞く耳を持たない態度は腹立たしいことこの上ない。もう(広島に)来てほしくない」と怒りをあらわにした。

広島県原爆被害者団体協議会の佐久間邦彦理事長は記者団に、日本政府が昨年立ち上げた核保有国、非保有国の専門家が核軍縮について議論する賢人会議について「核兵器禁止条約(に賛成)の立場に政府が立たない限り、賢人会議そのものに意味がない」と指摘した。

被爆者が首相を批判するのは、要望を政策に反映しようという姿勢が感じられないからだ。核廃絶に関しては、日本政府が米国など核保有国に対して、真剣に核放棄を迫っているようにもみえない。

首相は被爆者との面会で、核軍縮を巡る各国の立場の違いが顕在化していると指摘。日本に求められるのは橋渡し役だとした上で、条約は「アプローチが異なる」として参加は難しいとの考えを示した。賢人会議に言及し「核兵器国と非核兵器国への働きかけを行い、国際社会を主導していく」と理解を求めた。

面会後の記者会見では条約について「核兵器国は一か国も参加していない。参加しないとの立場に変わりはない」と言い切った。

核兵器禁止条約は、「ヒバクシャの受け入れ難い苦しみに留意する」と明記し、核兵器開発や使用を全面的に禁じた。昨年七月に国連で採択されたが、日本政府は条約交渉に参加せず、採択後も署名していない。

しんぶん赤旗 2018年8月7日(火)

## 平和記念式典 核なき世界実現へ対話促す 広島市長が 平和宣言 首相は条約にふれず

広島市主催の平和記念式典は平和記念公園で開かれ、被爆者や遺族、市民ら5万人が参列しました。



(写真) 松井広島市長による「平和宣言」が読み上げられ、ハトが放たれた平和記念式典＝6日、広島市中区の平和記念公園

松井一実市長は「平和宣言」で朝鮮半島情勢にふれ、「緊張緩和が対話によって平和裏に進むことを希望する」と述べました。日本政府に対し、「国際社会が核兵器のない世界の実現に向けた対話と協調を進めるよう」その役割を求めました。

アントニオ・グテレス国連事務総長のメッセージを中満泉軍縮担当上級代表が代読。核兵器禁止条約にふれ、「世界の指導者は、対話と外交の重要性を再認識し、核兵器の完全廃絶、そしてすべての人にとってより安全で安定した世界の実現に向け、再び共通の道を歩まなければなりません」と述べました。

広島県知事と広島市議会議長が核兵器禁止条約への批准を促し「核抑止」の危険性を語るなか、安倍晋三首相は、核兵器禁止条約に一言もふれず、核保有国と非核保有国の「橋渡し役」を務めると従来の言葉を繰り返し、被爆者の願いに背を向けました。

式典には85カ国と欧州連合の代表らが参加し、8時15分原爆投下時刻に黙とう。こども代表が「平和への誓い」を読み上げると、大きな拍手が起こりました。

広島原爆の日 作業の手止め黙とう 西日本豪雨被災地

毎日新聞 2018年8月6日 12時38分(最終更新 8月6日 13時11分)



8時15分に合わせて黙とうする警視庁の広域緊急援助隊員＝広島県坂町小屋浦で2018年8月6日午前8時15分、柴山雄太撮影

西日本を記録的豪雨が襲い、220人以上の命と住民の日常が奪われてから1カ月が過ぎた。濁流や土砂崩れにのまれた被災地では、今も行方不明者の捜索やボランティアによる復旧作業が続く。被災者や自治体職員らは6日、一時その手を止め、犠牲者の冥福を祈った。

岡山県庁では6日午前10時、32回目の災害対策本部会議が開かれた。冒頭、伊原木隆太知事をはじめ県幹部らが黙とう。県内で亡くなった61人に哀悼の意を示した。

岡山県内では倉敷市を中心に被害が出た。同市真備(まび)町地区では堤防が決壊し、甚大な浸水が発生。多くの家が水にのまれ、51人が亡くなった。他にも県内では川に流されるなど10人が命を失い、3人が行方不明のままだ。

倉敷市でも同日午前11時半、7月6日に避難準備・高齢者等避難開始が発令された時間に合わせ、各避難所や市役所などで被災者や市職員らが黙とうした。

行方不明者の捜索が続く広島県坂町小屋浦では、警視庁広域緊急援助隊の隊員約70人が、8時15分に広島原爆と西日本豪雨の犠牲者に黙とうをささげた。

隊員は捜索現場から広島市の平和記念公園の方向を向いて整列。放送で流された鐘の音に合わせて1分間、黙とうした。部隊の責任者、池田直警部は「最後の1分1秒まで、救助したいという思いで黙とうをささげた。行方不明者の発見に向けて部隊一同、努力したい」と話した。

土砂崩れなどで11人の犠牲者が出た愛媛県宇和島市吉田町地区では、午前中から気温30度を超える中、地元の高中生らが、ボランティアとして土砂かき出しや片付けなどの作業に汗を流した。

同町立間の市営住宅では6日午前10時から、同市の宇和島南中等教育学校の高中生ら19人が発生から1カ月が過ぎても残る土砂をスコップでかき集めた。近くの川が氾濫して約50センチ浸水。住民の小玉正重さん(83)は「高齢者が多い住宅なので、若者が来てくれるのはありがたい」と感謝。高校2年の井上湧斗さん(16)は「1カ月たってもたくさん土砂があり、まだまだ人手が必要だと思った」と汗を拭った。【矢追健介、柴山雄太、宮原健太、

木島諒子】

## 広島原爆の日 坂町の慰霊碑で追悼行事 豪雨土砂取り除き

毎日新聞 2018年8月6日 11時48分(最終更新 8月6日 12時39分)



西日本豪雨で一時は土砂に埋まった原爆慰霊碑の隣には、土砂がついたままの千羽鶴があった＝広島県坂町小屋浦で2018年8月6日午前6時48分、小川昌宏撮影

広島県坂町小屋浦にある原爆死没者の慰霊碑で6日、追悼行事が開かれた。同町では西日本豪雨で16人が死亡、1人が行方不明となった。慰霊碑も土砂に埋まったが、31年前の建立に協力した造園業の男性がボランティアで復旧。住民ら約20人が手を合わせた。



西日本豪雨で一時は土砂に埋まった原爆慰霊碑に向かい、手を合わせる人たち＝広島県坂町小屋浦で2018年8月6日午前8時15分、小川昌宏撮影

「坂町原爆被害者の会」小屋浦支部の元支部長、西谷敏樹さん(72)によると、原爆投下時、広島市街から約300人の被爆者が船で運び込まれた。住民らは臨時救護所の学校で手当てをしたが、半数が亡くなった。慰霊碑は1987年、その埋葬場所付近に有志が建立。清掃や慰霊の活動などを続けてきた。

ところが、1カ月前の豪雨で慰霊碑は土砂と倒木で埋没した。西谷さんは無残な姿に「あぜんとした」と振り返る。この事態を知ったのが、建立時にも無償で協力した同県海田町の造園業、田川房雄さん(77)。土砂を重機で取り除き、人も入れるようになった。田川さんは「碑をきれいに維持してくれた人たちの心意気を無駄にしたいくなかった」と話す。

同支部は被爆者らの高齢化が進み、先月末で解散していた。しかし、慰霊碑の復旧と田川さんの思いを受け、6日の追悼を決めた。西谷さんは「後世に伝える責任が私たち

にはあると感じた」と語り、若い世代による継承に期待した。【李英浩、木原真希】

## 広島原爆の日 登校日2年ぶり復活 市立小中で平和学習

毎日新聞 2018年8月6日 12時43分(最終更新 8月6日 15時05分)



73年前に原爆が投下された午前8時15分に合わせて、黙とうをささげる児童たち＝中区の広島市立幟町小学校で2018年8月6日午前8時15分、東久保逸夫撮影

広島市立小中学校で、広島原爆の日（8月6日）に合わせた登校日が2年ぶりに復活し、多くの子供たちが平和学習に励んだ。昨年は教員の人事権が広島県から市に移されたことに伴い、8月6日を休日とする市条例が学校現場に適用されて中止となった。しかし、存続を求める声を受け、市が文部科学省と協議した結果、従来通りに各校の判断で実施できることになった。

市立幟町（のぼりちょう）小学校（島本靖校長）では早朝から、約500人の児童が続々と登校。各教室のテレビで平和記念式典を視聴し、原爆投下時刻の8時15分に全員で黙とうした。その後の体育館での全校集会で、児童代表で6年生の梶岡千愛（ちな）さん（12）が「世界が平和になれるよう、最大限できることをしていきたい」と決意を述べた。

同校は「原爆の子の像」のモデルで、被爆から10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子（さだこ）さんの母校。昨年は8月4日を登校日としたが、島本校長は「式典への対応は各家庭でばらつきがあると思うので、原爆の日に登校して学ぶことが望ましい」と語った。

広島市教委によると、今年は小学校（全142校）の93%に当たる132校、中学校（全63校）の65%に当たる41校が8月6日を登校日にする方針を示していた。ただ、7月の豪雨によって、小学校数校で中止や延期を余儀なくされたという。【東久保逸夫】

## 広島原爆の日 水、あげられなかった「父に代わりおわび」

毎日新聞 2018年8月6日 12時36分(最終更新 8月6日 13時22分)

京都府の遺族代表として6日の平和記念式典に初めて参列した高橋和久さん（56）＝京都市西京区＝は、父久雄

さんが昨年6月に亡くなる直前に流した涙が忘れられない。久雄さんは73年前、広島県産業奨励館（現・原爆ドーム）の近くで遺体の搬送を手伝った際、水を求める負傷者を放置したことを悔やみ、その情景をステンドグラス画に残した。「広島へ慰霊に行き、父の代わりにおわびの気持ちを伝えたい」。作品の写真を携えて、父が描いた場所に立った。

【佐藤英里奈】



相生橋で、ステンドグラスの写真を手に気持ちを語る高橋和久さん＝広島市中区で2018年8月6日午前6時32分、望月亮一撮影

2016年末ごろ。和久さんは体調を崩して入院した久雄さんと、病室で2人きりになった。久雄さんは死期を悟ったのか、せきを切ったように73年前の出来事を語り、「水をあげたかったのに、あげられなかった。おわびしたい」と涙を流した。和久さんが久雄さんの涙を見たのは、初めてのことだった。

広島県福山市出身で鉄道学校の学生だった久雄さんは、原爆投下翌日に親族を捜すため広島市に入った。原爆ドームそばの相生橋で憲兵に呼び止められ、遺体搬送などの手伝いを命じられた。川のほとりで遺体を運ぼうとしていると、近くで大やけどを負った人たちが、「水をくれ」とすがって来た。しかし、憲兵から「絶対に水をあげてはいけない」と言い聞かされていたため、その声を振り切って作業を続けた。その後、負傷者がどうなったかは分からない。

戦後、仕事で近畿に移り住んだ久雄さんは当時のことをあまり語ってこなかったが、以前取り組んだ内装の技術を生かし、80歳の時に約1年かけて縦180センチ、横90センチの巨大なステンドグラス画5枚を制作した。相生橋の周辺で水を求める被爆者や多くの遺体が並ぶ様子などを描き、「水…水を… 生死の境 虫の息」などと書き添えた。和久さんは作品を見て「自分が見た光景を描き残したかったのだろう」と思ったが、涙に触れるまでその後悔の深さが分かっていなかったという。「重い出来事として、父の心の中にずっと引っかかっていたのだ」。涙の告白から約半年後、久雄さんは86歳で息を引き取った。

重い宿題を受け取った気がした和久さんは、久雄さんの思いを広島へ伝えに行こうと式典への参列を決めた。

4日に広島入りしてから作品の写真を持って描かれた場所を巡り、6日早朝も相生橋を訪れ、犠牲者の冥福を祈っ

た。「今の平穏な風景からは73年前に父が見た惨状は想像がつかないが、被爆2世としてその無念さを後世に伝えていきたい」と静かに語った。

**広島原爆の日 父の悲しみ、語り継ぐ「伸ちゃんの三輪車」**  
毎日新聞 2018年8月6日 11時31分(最終更新 8月6日 15時02分)



原爆資料館に展示されている伸ちゃんの三輪車。多くの来館者が足を止め、説明文を読んで涙する人もいる＝広島市中区で2018年8月1日、山田尚弘撮影

73年前の8月6日、人類史上初めて原爆が投下された広島は、一瞬にして街が、人の営みが消えた。最愛の家族を失った悲しみを胸にしまい、あの日を語らなかつた人。水を求める負傷者を助けられず生涯悔やみ続けた人――。被爆者が次々と世を去る中、その姿を見てきた2世や次世代の子供たちは託された思いを受け継ぎ、核兵器のない世界に向けて一步を踏み出すと誓った。

被爆2世として決意

毎朝小さな地蔵に手を合わせる父の背中が、日常の風景だった。広島市中区原爆資料館で多くの来館者の心を揺さぶる「伸(しん)ちゃんの三輪車」。被爆死した我が子を三輪車とともに自宅の庭に埋めた故・鉄谷信男さんの深い愛情と悲しみを伝える代表的な遺品だ。戦後生まれた三男の敏則さん(69)は、多くを語らなかつた信男さんが地蔵の前で毎日つらい記憶と向き合っていたと後に気付いた。「被爆2世として父を語り継ぐ」。73回目の夏、新たな決意をした。

信男さんはあの日、爆心地から1.5キロの薬局を営んでいた自宅で家族と被爆。3人の子供を失った。自宅前で三輪車で遊んでいた長男、伸一ちゃん(当時3歳)はやけどで顔がはれあがり、「水、水」とうめきながらその夜に死亡。翌日には焼け跡から長女路子(みちこ)さん(同7歳)、次女洋子ちゃん(同1歳)の遺骨が見つかった。信男さんは伸一ちゃんを火葬する気になれず、一緒に遊んでいて亡くなった近所の女の子と手をつながせ、大好きだった三輪車と一緒に庭に埋めた。そこに「伸一に似ている」という小さな地蔵を置いて、毎朝線香を立てて手を合わせるようになった。

被爆から40年の1985年7月、信男さんは自宅の建

て替えを機に伸一ちゃんを掘り起こそうと決め、親戚と一緒に埋葬した女の子の母親ら十数人が庭に集まった。敏則さんらが50センチぐらい掘ると、三輪車のハンドルが見つかり、さらに掘ると、白い骨が出てきた。丁寧に土を払っていくと、手を重ねたままの2人の姿があった。小さな指先、頭蓋骨(ずがいこつ)もほぼ残っていた。敏則さんは驚いたが、「父は取り乱すことなく静かに見ていた」。遺骨は墓に移し、三輪車は原爆資料館に寄贈した。

信男さんは三輪車の展示を機にメディアの取材も受けるようになったが、敏則さんから家族に被爆当時や伸一ちゃんについて語ることは一貫してなかつた。幼い敏則さんが伸一ちゃんを埋めた場所のそばを走り回っても怒らず、地蔵に拝めとも言わなかつた。強く印象に残っているのは朝食前、庭先で地蔵に静かに向かい合う父の姿だ。遺骨を掘り起こした後もやめず、98年に亡くなるまで続けた。

「あまりに当たり前の風景だったので、何となく始めた」とその後は敏則さんが引き継いだ。毎日手を合わせるうちに、気付いた。「毎日地蔵の前に行くことは、毎日子供を失ったあの時を思い出すということ。私なら耐えられないが、どんなにつらくても忘れなくなかつたのだろう」

70歳が近づき、メディアなどを通してしか知らなかつた父の体験や思いを自分でとどりたいと考え、書き残したのや記録を探し始めた。6日朝もいつものように手を合わせた敏則さんは「それぞれの家庭に被爆体験の伝え方がある。うちは父が背中で、ごく自然に忘れてはいけなかつた」と教えてくれた。父の姿を子や孫たちに伝えることが、自分の役割だと思っている。【寺岡俊】

**広島市長「核廃絶を人類共通の価値観に」 平和宣言全文**  
朝日新聞デジタル 2018年8月6日 10時38分



平和宣言を読み上げる松井一実市

長＝2018年8月6日午前8時17分、広島市中区、小林一茂撮影

6日午前広島市で開かれた平和記念式典で、松井一実市長が「平和宣言」を読み上げた。全文は次の通り。

◇

73年前、今日と同じ月曜日の朝。広島には真夏の太陽が照りつけ、いつも通りの一日が始まろうとしていました。皆さん、あなたや大切な家族がそこにいたらと想像しながら聞いてください。8時15分、目もくらむ一瞬の閃光(せんこう)。摂氏100万度を超える火の球からの強烈な放射線と熱線、そして猛烈な爆風。立ち昇ったきのこ雲の下で

何の罪もない多くの命が奪われ、街は破壊し尽くされました。「熱いよう！ 痛いよう！」潰（つぶ）れた家の下から母親に助けを求め叫ぶ子どもの声。「水を、水を下さい！」息絶え絶えの呻（うめ）き声、唸（うな）り声。人が焦げる臭気の中、赤い肉をむき出しにして亡霊のごとくさまよう人々。随所で降った黒い雨。脳裏に焼きついた地獄絵図と放射線障害は、生き延びた被爆者の心身を蝕（むしば）み続け、今なお苦悩の根源となっています。

世界にいまだ1万4千発を超える核兵器がある中、意図的であれ偶発的であれ、核兵器が炸裂（さくれつ）したあの日の広島を再現させ、人々を苦難に陥れる可能性が高まっています。

被爆者の訴えは、核兵器の恐ろしさを熟知し、それを手にしたいという誘惑を断ち切るための警鐘です。年々被爆者の数が減少する中、その声に耳を傾けることが一層重要になっています。20歳だった被爆者は「核兵器が使われたなら、生あるもの全て死滅し、美しい地球は廃墟（はいきょ）と化すでしょう。世界の指導者は被爆地に集い、その惨状に触れ、核兵器廃絶に向かう道筋だけでもつけてもらいたい。核廃絶ができるような万物の霊長たる人間であってほしい」と訴え、命を大切に、地球の破局を避けるため、為政者に対し「理性」と洞察力を持って核兵器廃絶に向かうよう求めています。

昨年、核兵器禁止条約の成立に貢献したICANがノーベル平和賞を受賞し、被爆者の思いが世界に広まりつつあります。その一方で、今世界では自国第一主義が台頭し、核兵器の近代化が進められるなど、各国間に東西冷戦期の緊張関係が再現しかねない状況にあります。

同じく20歳だった別の被爆者は訴えます。「あのような惨事が二度と世界に起こらないことを願う。過去の事だとして忘却や風化させてしまうことがあっては絶対にならない。人類の英知を傾けることで地球が平和に満ちた場所となることを切に願う」。人類は歴史を忘れ、あるいは直視することを止（や）めたとき、再び重大な過ちを犯してしまいます。だからこそ私たちは「ヒロシマ」を「継続」して語り伝えなければなりません。核兵器の廃絶に向けた取り組みが、各国の為政者の「理性」に基づく行動によって「継続」するようにしなければなりません。

核抑止や核の傘という考え方は、核兵器の破壊力を誇示し、相手国に恐怖を与えることによって世界の秩序を維持しようとするものであり、長期にわたる世界の安全を保障するには、極めて不安定で危険極まりないものです。為政者は、このことを心に刻んだ上で、NPT（核不拡散条約）に義務づけられた核軍縮を誠実に履行し、さらに、核兵器禁止条約を核兵器のない世界への一里塚とするための取り組みを進めていただきたい。

私たち市民社会は、朝鮮半島の緊張緩和が今後も対話によって平和裏に進むことを心から希望しています。為政者

が勇気を持って行動するために、市民社会は多様性を尊重しながら互いに信頼関係を醸成し、核兵器の廃絶を人類共通の価値観にしていかなければなりません。世界の7600を超える都市で構成する平和首長会議は、そのための環境づくりに力を注ぎます。

日本政府には、核兵器禁止条約の発効に向けた流れの中で、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現するためにも、国際社会が核兵器のない世界の実現に向けた対話と協調を進めるよう、その役割を果たしていただきたい。また、平均年齢が82歳を超えた被爆者をはじめ、放射線の影響により心身に苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

本日、私たちは思いを新たに、原爆犠牲者の御霊（みたま）に衷心より哀悼の誠を捧げ、被爆地長崎、そして世界の人々と共に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすことを誓います。

平成30年（2018年）8月6日

広島市長 松井一実

### 広島知事「お隣吹き飛ばす爆弾、子供に説明できない」

朝日新聞デジタル2018年8月6日15時50分

6日の平和記念式典での広島県の湯崎英彦知事のあいさつ全文は次の通り。



原爆犠牲者の御霊（みたま）に、広島県民を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、今なお、後遺症で苦しんでおられる被爆者や、ご遺族の方々に、心からお見舞い申し上げます。

草木も生えないと言われた被爆75年をあと2年後に控え、私たちは今大きな波にさらされています。

一筋の光明は、広島と長崎で我々がくぐり抜けた筆舌に尽くし難い非人道的な経験が、本当は口にしたくもない被爆者の長年にわたる証言によって多くの国に共有され、核兵器の非人道性に軸足を置いた核兵器禁止条約が国際的に合意されたことです。

他方、世界では各地で国際的緊張が高まり、核兵器国は競って核兵器の更新や能力向上、さらには「使える核兵器」の開発にまで進もうとしています。これは、いまだに核兵器国を中心とする国々が、核抑止力による力の均衡を信じているからです。

では、核抑止力の本質は何か。簡単に子供に説明するとすれば、このようなものではないでしょうか。

「いいかい、うちとお隣さんは仲が悪いけど、もし何かあれば、お隣のご一家全員を家ごと吹き飛ばす爆弾が仕掛けてあって、そのボタンはいつでも押せるようになってるし、お隣さんうちを吹き飛ばす爆弾を仕掛けてある。一家全滅はお互い、いやだろ。だからお隣さんはうちに手を

出すことはしないし、うちもお隣に失礼はしない。決して大げんかにはならないんだ。爆弾は多分誤作動しないし、誤ってボタンを押すこともないと思う。だからお前は安心して暮らしていればいいんだよ」

一体どれだけの大人が本気で子供たちにこのような説明をできるのでしょうか。

良き大人がするべきは、お隣が確実に吹き飛ばすような爆弾に工夫をこらすことではなく、爆弾はなくてもお隣と大げんかしないようにするにはどうすればよいか考え、それを実行することではないでしょうか。

私たちは、二度も実際に一家を吹き飛ばされ、そして今なおそのために傷ついた多くの人々を抱える唯一の国民として、核抑止のくびきを乗り越え、新たな安全保障の在り方を構築するため、世界の叡智（えいち）を集めていくべきです。NPT（核不拡散条約）運用検討会議も開催される2年後の被爆75年に向けて、今こそ世界に向けて立ち上がり、行動するときです。

私たちの、そして世界中の子供たちに、本当の安心をもたらしてやるために全力を尽くすことが、我々日本の大人たちの道徳的責任だと確信いたします。

結びに、広島県としても、将来の世代のために核兵器を廃絶し、誰もが幸せで豊かに暮らせる平和な世界を残すことができるよう、世界の皆様と行動していくとともに、高齢化が進む国内外の被爆者援護の更なる充実に全力を尽くすことを改めてここに誓い、平和へのメッセージといたします。

2018年8月6日

広島県知事 湯崎英彦

## 核兵器「早く禁止を」＝被爆者ら、平和訴え－広島・原爆忌



73回目の原爆の日を迎え、死没者慰霊碑の前で線香を手向ける遺族の男性（中央）ら＝6日朝、広島市中区の平和記念公園

原爆投下から73年を迎えた6日、広島市中区の平和記念公園には未明から被爆者や遺族らが訪れ、原爆死没者慰霊碑前で犠牲者に祈りをささげた。「核兵器は存在すべきではない。早く禁止を」。被爆者の高齢化が進む中、多くの人が記憶の継承と平和の実現を訴えた。

同市西区の鈴藤実さん（87）は、原爆で祖父母と両親、2人の姉を亡くした。爆心地から離れた工場にいたため、

一人だけ生き残った。「あの悲惨さを知っていたら、核兵器が存在すべきでないことははっきり分かる。早く禁止してほしい」と語気を強めた。

姉を亡くした中区の山本賀代子さん（77）は「すごく苦しい思いをした方がたくさんおられたと思う。核兵器や戦争はあってはいけない、絶対に」と絞り出すように語った。

佐伯区の木元晃さん（78）は5歳の時、爆心地から1.5キロの自宅で被爆。「原爆は二度といけん。戦争はあったらいけん」と訴え、「生の声を伝えるため、今年から語り部として活動したい」と話した。



73回目の原爆の日を迎え、死没者慰霊碑の前で手を合わせる親子＝6日朝、広島市中区の平和記念公園

中区の吉沖紀代美さん（53）は、被爆した祖母や父から体験を聞いて育った。「年をとって亡くなる方も多く、被爆二世としての使命を感じる。二度と原爆の犠牲者が現れないように。亡くなられた方が安らかに眠れる世の中になりたい」と決意を込めた。

6日は大きな被害をもたらした西日本豪雨から1カ月になる。中学1年の娘と一緒に訪れた安佐北区の熊谷謙次郎さん（54）は「土砂災害もあり、一人ひとりの命の大切さを強く感じた。戦争の起こらない平和な世界になってほしい」と願った。父親を原爆で亡くした安芸区の吉川博司さん（76）は「広島は水害もあったが、元気でやっていると父に報告してきた。広島は頑張らない」と自らに言い聞かせるように語った。（時事通信 2018/08/06-09:06）

## 被爆建物や復興シンボル周遊＝「ピースツーリズム」開始へ－広島市

広島市は、原爆ドームのある平和記念公園を中心に、被爆した建物や慰霊碑を巡り平和への思いを深めてもらう観光周遊を計画している。戦争や災害の跡を訪ねる旅は「ダークツーリズム」とも呼ばれるが、「負の遺産だけでなく復興の様子を知ってもらいたい」（担当者）との思いから、ピースツーリズムと名付けた。

市は2017年度、平和と観光を組み合わせた施策の在り方を考えるため、平和団体の代表者や観光関係者で構成する懇談会を設置。被爆した樹木や小学校のほか、原爆をテーマにした文化・芸術のゆかりの場所、プロ野球広島東洋カープの本拠地だった旧市民球場跡地といった復興のシ

ンボルなど計53カ所を巡る4ルートを設定した。



原爆ドームについて説明するスマートフォン向けのサイト画面（広島市提供）



ピースツーリズム推進懇談会の原田浩座長＝7月23日、広島市中区

目的地や所要時間を掲載するサイトを開設し、施設そばの説明板には、スマートフォンをかざすと被爆前後の姿を紹介する文章が表れる拡張現実（AR）を用いたシステムを導入する。例えば原爆ドームは、被爆前の広島県物産陳列館の絵やドーム内部の画像、歴史を紹介する文章が表示される。ルートとサイトの公開は10月を目指す。（時事通信 2018/08/06-15:32）

## 写真で被爆継承を＝3世家族撮り続けー広島の女性カメラマン



被爆3世の家族写真の前で話す堂畝絃子さん＝7月27日、広島市安芸区

被爆者を祖父母に持つ被爆3世の家族写真を、撮り続けているカメラマンがいる。広島市在住の堂畝絃子さん（36）。「話を聞けるのは今しかない。被爆体験の継承のきっかけになれば」。2015年から撮り始めた家族の数は70を超えた。

きっかけは、友人女性の「私を撮ってみたい？」という言葉だった。友人は、20代で世界中を旅している最中、ある外国人に何気なく祖父が被爆したことを打ち明けたところ、「子どもと遊ばないで」と相手の態度が一変した経験がある。それまで被爆3世であることを意識したことはなく、ショックを受けたという。

原爆の惨禍と教訓を次世代にどう残すか相談した堂畝さんに、自ら被写体になると提案してくれた。「さらし者にしたくない」と悩んだが、撮影を決意。その後も3世に焦点を当て、ありのままの姿を写し取ることを心掛けてきた。

「うちの子を被爆3世と呼ばないで」「原爆ドームの前で笑顔の写真撮るのは不謹慎だ」。当初は、家族の心情的な反発や批判も受け、展示会場を断られたことも。だが、同世代の等身大の姿を目にした若者らにとって、被爆を考える入り口になるとの思いは強い。

撮影に際しては、被爆した祖父母を囲んで家族が話し合う時間をつくり、写真のキャプションは3世に書いてもらう。印象的だったのは、みるみる表情が変わる3世の姿だ。初めは興味がない様子でも、話をするうちに泣いたり、黙り込んだり、真剣に質問をしたり。「戦争を知らない私たちが、人ごとではないと感じた」と言う。

ある大学生からは「撮ってもらわなければ、一生おばあちゃんの話聞くことはなかった」と感謝された。「子どもには話せないことが孫には話せた」と話す被爆者もいた。

一方で、高齢化が進み、撮影を目前にして亡くなる人も。「時間がない」。堂畝さんは7月の西日本豪雨で自宅が浸水。作品の一部が水没したが、避難所で過ごしながらかつて写真展開催にこぎ着けた。

「広島と長崎は生き残った苦しみを知っている。被爆者が頑張ってきたから今の家族がある。そのことを継承していけたら」。堂畝さんはそう願っている。（時事通信 2018/08/06-04:21）

あの日、被爆者あふれた病院で 医師の父と少年は写真に  
朝日新聞デジタル松崎敏朗 2018年8月7日 07時26分



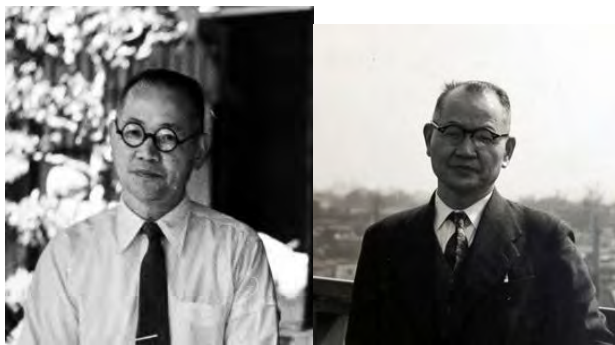
広島

赤十字病院（現広島赤十字・原爆病院）で、ひどいやけどを負った少年の顔を手当する永田幸一さん（左）＝1945年8月10日、広島市、宮武甫氏撮影



19

45年9月に撮影された広島赤十字病院（現広島赤十字・原爆病院）。周辺の建物がなくなる中、倒壊を免れた。当時、朝日新聞の写真記者だった故・松本栄一氏が撮影した＝広島市



原爆投下直後の広島の病院で顔にやけどを負った少年と治療する医師を撮った写真が、来春リニューアルオープンする広島平和記念資料館本館（広島市中区）の常設展示に加わる。核兵器のむごさを伝える医療現場の記録として何度か展示されたことはあったが、少年や医師の名前などの詳細はわからなかった。朝日新聞の取材でこの夏、医師の名前が分かり、同市在住の娘が「あの日の父」を語った。

顔全体のやけどが痛々しい少年の目の辺りを、めがねをかけた男性医師が手当する情景。原爆投下から4日後の8月10日、広島赤十字病院（現広島赤十字・原爆病院）で、朝日新聞の写真記者の故・宮武甫（はじめ）氏が撮影した。

宮武氏は陸軍の調査団に同行して広島に入り、壊滅的な被害を受けた街を撮影した。この病院を訪れた時の様子を1982年の手記にこう記す。

顔や体を焼かれ、衣服もまともにつけていないひん死の被爆者があふれていた。言葉にならないうめき声が広い部屋に充満し、枕元に置かれた水のビンすら自分の力では手に取ることができない有り様だった。

広島赤十字・原爆病院によると、病院は当時、爆心地から約1・5キロにあり、医師や職員らは院外にいた者も含め51人が死亡、250人が重軽傷を負った。市中心部で焼失を免れた数少ない病院だったため、治療を求めて患者が殺到した。

この写真は、来春一新される資料館本館の入り口に掲げる写真の候補が検討される中で、光が当たった。朝日新聞が同病院や市医師会などを取材し、医師は当時産婦人科医長だった故・永田幸一さんとわかった。

長女の陽子さん（72）は現在も広島市東区在住。記者が写真を見せると息をのみ、しばらく見つめた後、「これは父ですね」。

陽子さんによると、永田さんは原爆投下当時、病院内にいて被爆した。

「ちょうど回診の途中で廊下に出た時だったようです。閃光（せんこう）が走り、病室の窓ガラスは粉々に。『もし病室にいたら、無数に割れたガラスが体に突き刺さっていたかもしれない』と父は話していました」

被爆後の病院のことは、あまり話したがらなかったという。「理由ははっきりしませんが、前日に院長から早めに入院するよう指示されたそうです」とも回想した。

永田さんは戦後も広島赤十字病院で働き続けた。子宮がんの治療・研究で知られた存在で、国内外の学会に熱心に



足を運んでいたという。

「まるで古武士のようでした」と父の仕事ぶりを語った。夜遅くに病院から呼び出しを受けても嫌な顔一つしないで家を出た。「仕事には一途な信念を持っていました」。68年に退職し、広島市東区で開業した。

88年に85歳で亡くなった。陽子さんは「父は天寿を全うすることができました。でも、あの少年はその後どうなったのか、それが気がかりです」と話す。

資料館本館のリニューアルに先立ち、東館で原爆投下直後の広島赤十字病院による救護活動がテーマの特別展が開催中で、この写真も展示されている。資料館の学芸員は「多くの子どもが原爆で被害に遭ったことを伝えるのにふさわしい」と写真を評する。

広島赤十字・原爆病院でも6日に慰霊式があった。原爆の爆風を受けてゆがんだ鉄製の窓枠が残された壁の前で、職員ら約150人が午前8時15分に黙禱（もくとう）を捧げ、慰霊碑に花を手向けた。（松崎敏朗）

**山本浩二さん兄、初の式典「遠ざけてきた場所だったが」**  
朝日新聞デジタル橋本拓樹 2018年8月6日 11時36分



式典を前に緊張した面持ちの山本宏さん

＝6日午前7時37分、広島市中区、橋本拓樹撮影

元広島カープの山本浩二さん（71）の兄宏さん（80）＝東京都江戸川区＝が初めて式典に参列した。

73年前、爆心地から約2・5キロ離れた広島市己斐（こい）町（現・西区）で集団登校中に被爆した。後頭部にやけどを負い、激痛に耐えた。当時、己斐国民学校（現・己斐小学校）の2年生。校庭に掘られた穴の中で、大勢の生徒らの遺体が焼かれる様子を目にした。

「強烈すぎて思い出したくない」。特に戦後生まれの浩二さんの前では「わざわざ嫌な思いをさせることもない」と口を閉ざした。広島で長く暮らしたが、原爆につながるものは意識的に避けてきた。

被爆70年を迎えた2015年。母の三回忌で家族が集まった際、初めて息子と娘たちに体験を詳しく話した。家族とともに被爆した場所を再訪しようと出かけたが、街並みがすっかり変わり、捜し出せなかった。「いま話さないと、すべて消えてしまう」。昨夏に江戸川区の原爆犠牲者追悼式で、初めて公の場で体験を語った。

式典後、「遠ざけてきた場所だけけど、来てみると恐怖感が

すっと抜けた。証言活動も臆さずにできると思う」と話していた。（橋本拓樹）

**熊本 「一緒に平和を考える」学生ら団体「ラ・ペ」設立**  
毎日新聞 2018年8月7日 11時02分(最終更新 8月7日 11時24分)



打ち合わせをする学生団体「La Paix」（ラ・ペ）の大学生、高校生たち＝熊本市で、浅野翔太郎撮影

熊本県内の大学生や高校生が、核兵器の問題を小中学生に伝え、平和について同世代の若者と考える団体「La Paix」（ラ・ペ）を設立した。原爆の惨禍を伝えるオリジナル脚本を使った「パネルシアター」と呼ばれる朗読劇が評判になり、出前授業や講演の依頼が相次ぐ。メンバーは「原爆の悲惨さを語り継ぎ、行動することは被爆地以外の人間でもできる」と話す。

「ラ・ペ」はフランス語で「平和」を意味する。核兵器廃絶を求める署名を国連欧州本部（スイス・ジュネーブ）に届ける高校生平和大使や、署名を集める「高校生1万人署名活動」に参加した経験がある学生と生徒8人で7月に結成した。後輩たちの署名活動などを応援するのが目的だったが、活動は熊本から広島や長崎に修学旅行などに行く小中学生向けの事前学習に広がった。

事前学習で使うのは、メンバーが被爆者から直接聞いた話を基に制作したオリジナル脚本「ひなちゃんの夏の夢」。熊本の小学生、ひなちゃんが長崎の祖母の家を訪ね、原爆の話を知ろうとするが、被爆者の祖母は口を閉ざす。その夜、ひなちゃんは長崎に原爆が投下された1945年8月9日にタイムスリップする夢を見て、被爆体験を目の当たりにする。翌朝、祖母は「あの日」のことをひなちゃんに語り始める――という物語だ。

熊本県立玉名高2年時に高校生平和大使を務めた「ラ・ペ」共同代表、松本海空（みく）さん（18）＝熊本県立大1年＝は「被爆者ではない私たちが語るうえで、子どもたちにも自分たちの問題として原爆や平和を捉えやすい内容にした」と説明。登場人物などの絵を布の舞台に貼り、音楽を交えながらストーリーを進めて子供たちの関心を高めていく。

7月上旬に出前授業を依頼した山鹿市立めのだけ小学校の担当教員は「年が近い若者が行動している姿が、子どもの関心を引きつける。子どもたちの目の色が違った」と振

り返った。

メンバーは学校や学年もさまざまだが、インターネット通話やソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)で活動の日程などを調整している。

メンバーの荒木美柚(みゆ)さん(17)＝九州学院高3年＝は、昨年の高校生平和大使の活動を通じて継承活動の重要性に気付いたといい、「どこにいても行動することが重要」と強調。荒木さんらは「長崎原爆の日」前日の8日に長崎を訪れて、高校生平和大使らに「ひなちゃんの夏の夢」の朗読劇を披露する。【浅野翔太郎】

## 広島原爆の日 寡黙な父が声震わせ… 遺志継ぎ署名活動

毎日新聞 2018年8月6日 22時19分(最終更新 8月6日 22時36分)



平和記念式典参列後に原爆ドームを訪れる被爆2世の細田伸子さん。「多くの遺族にあって気持ちを共有できて良かった」と語った＝広島市中区の平和記念公園で2018年8月6日午前9時18分、山崎一輝撮影

「絶対に戦争をしないでくれ」。長野県飯田市の細田伸子さん(64)は父昭夫さんが初めて被爆証言をした際に声を震わせながら発した言葉が頭から離れず、2年前に亡くなったのを機に核兵器廃絶を求める署名活動を始めた。「あの日の記憶に苦しみながらも強く平和を願っていた父のため、できることをしたい」。遺族代表として6日に初めて平和記念公園(広島市中区)の平和記念式典に参列し思いを新たにしたい。

細田さんが覚えているのは、幼い頃に一緒に風呂に入った時に見た昭夫さんの背中への無数の傷痕だ。疲れやすく、緊張が高まるとすぐ意識を失った。祖母や母によると、昭夫さんは1945年8月6日、爆心地から約2キロの広島大の前身・広島工業専門学校で被爆。同校で醸造を学ぶため広島に着いてから2、3日後のことだった。長野に戻った父の背中には小さなガラス片がびっしり突き刺さっていたという。

細田さんが自分たちに体験を聞かせてほしいと頼んでも、昭夫さんは「話したくない」と強く拒んでいたが、10年前に初めて重い口を開いた。所属する長野県原爆被害者の会の当時の会長が「今日の聞き手は明日の語り手」と訴え、

精力的に体験を語る姿に影響を受け決意したという。

当日は細田さんも立ち会ったが、地元の中학생を前に証言した昭夫さんは声が震え、涙をこらえるのに精いっぱい様子だった。「感情が高ぶって、話がまとまっていなかった」。聞き取れたのは「誰も彼も皮膚がただれて着物の裾のようになっていた」「真っ黒になった人の上を夢中になって歩いた」という断片的な言葉だけ。それでも苦しみながら語る姿に、初めて原爆の悲惨さに触れた気がした。最後に「君たちに話したのは、絶対戦争をしないでくれと伝えたかったから」と語ったのが印象に残った。

昭夫さんはその後もう一度だけ証言したが、手記を残すこともなく2016年4月に88歳で亡くなった。細田さんは「あまりに悲惨な体験で、なかったことにしたかったのかもしれない」と推し量る。

細田さんは半年後、被害者の会が「ヒバクシャ国際署名」に取り組んでいると聞き、被爆者を手伝って街頭などで署名集めをするようになった。「平和は当たり前ではなく、一人一人の意思が支えると父に教えられた。核廃絶は簡単ではないが、署名を通じ多くの人に関心を持ってほしい」と願う。【谷田朋美】

## 【前編】被災と被爆、思い重ねた祈り 両陛下も皇居から 朝日新聞デジタル 2018年8月6日 13時22分



慰霊碑の前で手を合わせる人たち＝2018年8月6日午前5時37分、広島市中区の平和記念公園、小林一茂撮影

広島は6日、被爆73年となる「原爆の日」を迎えました。今年の夏は西日本豪雨災害の被災1カ月とも重なり、復旧と鎮魂という「特別な一日」となった各地の動きをタイムラインで追います。

のんさん、片渕監督と参列@広島・旧中島本町



映画の取材に協力した高橋

久さん(左)と話すのんさんと片渕須直監督＝6日午前9時1分、広島市

今は平和記念公園となっている旧中島本町。午前9時、平和の観音像に焼香台が設けられ、約50人が手を合わせた。原爆で両親と兄、姉を失った浜井徳三さん(84)は「生きている限り慰霊祭を次世代に引き継いでいきたい」と語った。

平和記念式典後に開かれた慰霊式には、戦時下の広島・呉を舞台にしたアニメ映画「この世界の片隅に」(片渕須直監督)で主人公「すず」の声で出演した俳優のんさんも参列した。(永野真奈)



〈旧中島本町とは〉 広島市中心部を流れる元安川と本川に挟まれたデルタの北端にかつて存在した町。現在は、広島平和記念公園となっている。



空から見た旧中島本町の町並み(C) こうの史代・双葉社/「この世界の片隅に」製作委員会

中島本町を含む旧中島地区(中島本町など6町)の一角はかつて広島随一の繁華街で、映画館や商店、住宅がひしめいていた。広島原爆戦災誌によると、この同地区には約1300世帯約4400人が暮らしていたが、原爆で壊滅した。

2016年に封切られ、現在まで異例のロングランが続くアニメ映画「この世界の片隅に」では、子ども時代のすずが訪れ、大正屋呉服店(現・広島市平和記念公園レストハウス=改装中)前の通りや浜井理髪館など商店がひしめく様子が、詳細に描かれている。(宮崎園子)

両陛下、式典をテレビで@東京・皇居

天皇、皇后両陛下は午前8時15分ごろ、お住まいの皇居・御所で式典の様子をテレビで見ながら黙禱(もくとう)した。毎年この日に黙禱を捧げてきた両陛下にとって、今年が在位中最後の黙禱になる。



天皇、皇后両陛下

下は皇太子時代に広島赤十字・原爆病院を訪れ、入院患者を励まされていた=1968年7月  
豪雨被災地、20人が手合わせ@広島・坂町

西日本豪雨で大きな被害が出た広島県坂町。JR呉線の小屋浦駅近くの前原慰霊碑の前では原爆の投下時刻に合わせて約20人が手を合わせた。

豪雨でがけが崩れ、慰霊碑は土砂に埋もれた。管理を続けてきた西谷敏樹さん(72)は「今年は8月6日を迎えられないと思った」と話す。



原爆慰霊碑に手を合わせる人々=2018年8月6日午前8時15分、広島県坂町、光墨祥吾撮影

原爆投下後、小屋浦には被爆した人が運び込まれた。住民が救護したが、多くの方が亡くなった。

災害後、地元の建設会社の助けを借り、慰霊碑はきれいになった。西谷さんはその前でこう言った。「原爆の悲惨な一面が、この地もふりかかっていたということを改めて思い起こさせてくれた」(光墨祥吾)

被爆死した移動劇団に祈り@東京・目黒



原爆で亡くなった移動劇団「桜隊」9人の冥福を祈り、午前8時15分に黙禱(もくとう)する演劇関係者ら=東京都目黒区

東京・目黒。広島に投下された原爆で9人が死亡した戦時中の移動劇団「桜隊」の法要が、五百羅漢寺で行われた。

演劇界の有志らが1975年から、法要に合わせて朗読劇や講演会などの「追悼会」を開き、悲劇を語り継いできたが、会長を務めた俳優の神山寛さんから中心メンバーが相次ぎ死去。今年開催を断念した。

約30年、会の運営に関わってきた詩人の近野十志夫さ

ん(72)は、他のメンバーとともにこの日の法要に出席し、「核兵器廃絶だけでなく、反戦など新たな切り口でもいい。若い人が好きな形で続けられるように、今後の活動の『炎』も演劇界に残せないだろうか」と訴えた。(吉野太郎)

安倍首相、核禁止条約には今年も触れず(8:32)

広島市で開かれた平和記念式典に参列した安倍晋三首相。「唯一の戦争被爆国として、『核兵器のない世界』の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくことは、我が国の使命だ」とあいさつした。約5分にわたり、手元の原稿に目を落として読み上げた。

首相は「近年、核軍縮の進め方について各国の考え方の違いが顕在化している」とし、核兵器のない世界の実現には「被爆の悲惨な実相の正確な理解を出発点として、核兵器国と非核兵器国双方の協力を得ることが必要」と強調。

「非核三原則を堅持しつつ、粘り強く双方の橋渡しに努め、国際社会の取り組みを主導していく決意」と述べた。



原爆死没者慰霊碑前で

あいさつする安倍晋三首相＝2018年8月6日午前8時33分、広島市中区、小林一茂撮影

一方で、昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約については、今年も触れなかった。

あいさつが始まる際、「戦争する国の総理のあいさつは聞きとらないから、帰る」と言って、会場を立ち去る男性もいた。あいさつ中は会場の外から、安倍首相の参列に反対するものとみられるシュプレヒコールが響き続けた。(太田成美)

被爆電車「歴史の生き証人」@広島・原爆ドーム

原爆で被爆しながら今も運行している広島電鉄の「被爆電車」が、原爆ドーム最寄りの電停に到着した。夏の日差しが降り注ぐなか、電停で降りた人たちが平和記念公園に次々と向かった。



原爆ドーム

ム前電停に到着した「被爆電車」＝2018年8月6日午前8時15分、広島市中区、小池寛木撮影

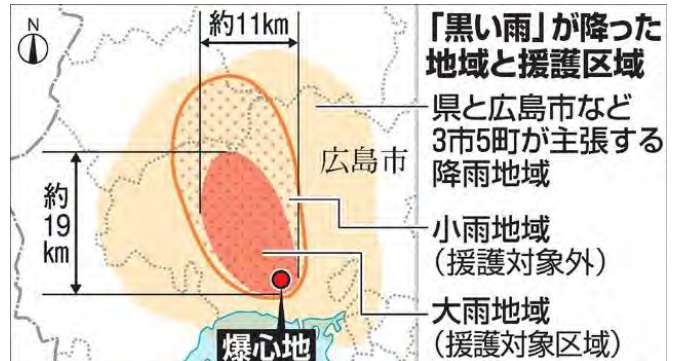
路面電車に乗って平和記念公園に訪れた広島市南区の佐伯和邦さん(73)は、生後2カ月で被爆。毎年欠かさず、この地を訪れているという。「被爆電車は歴史の生き証人。当時を知る電車が走る姿を見て、この日を忘れないでほしい」と話した。

1945年8月6日の原爆投下で、市内線123両のうち108両が被爆した。その3日後に一部区間で運行が再開され、復興のシンボルにもなった。現在も3両の被爆電車が残され、うち「651号」「652号」の2両は現役で走っている。(小池寛木)

投下後降りだした「黒い雨」(9:00ごろ)

原爆投下からしばらくして、広島では黒く濁った大粒の雨が降りだした。いわゆる「黒い雨」だ。核爆発で生じた放射性物質や焼けた物のすすなどが上空に達し、雨雲が発生。広島市北西部を中心に、夕方まで降雨が記録されている。

「黒い雨」は作家の故・井伏鱒二の小説になり、後に映画化された。原爆の悲惨さとたくましく生きる人々の姿を描いた漫画「はだしのゲン」作者の故・中沢啓治さんによる初の原爆漫画「黒い雨にうたれて」のタイトルにもなった。



「黒い雨」が降った地域と援護区域

「黒い雨」について、国は爆心地の「東西15キロ、南北29キロ」で降り、うち「東西11キロ、南北19キロ」が大雨地域と分析。1976年、公費で健康診断が受けられる援護対象地域に指定した。がんなどになると被爆者健康手帳が交付される。

一方で、地域から外れた小雨地域やその周辺に住む人からも『「黒い雨」を浴び、健康被害に悩まされている』といった証言が相次いだ。広島市などが地域拡大を求め、厚生労働省は検討会を設けて協議したが、2012年7月に「拡大は困難」と認めなかった。援護区域の拡大や被害救済を求める人たちの「黒い雨」訴訟は、いままも広島地裁で続いている。

長崎代表・創成館も黙とう@大阪・堺



黙 禱

(もくとう)する創成館の選手ら＝2018年8月6日午前8時15分、大阪府堺市堺区戎島町

夏の甲子園に出場している長崎代表の創成館の選手らも、宿泊している大阪府堺市のホテル敷地内の自主練習場で午前8時15分から1分間、広島のある西の方を向いて黙禱(もくとう)した。初戦は、長崎に原爆が投下された9日の予定だ。

メンバーから外れ、補助員としてチームを支える高重輝政さんは広島市出身。原爆ドームから車で10分ほどの中学校に通っていた。「離れていても、いつも広島のことは気になっている」。広島県東広島市出身で11番を背負う戸田達也さんは「初戦の9日も長崎にとって大事な日。いい報告がしたい」と話した。(横山輝) 甲子園出場の広陵が黙とう@大阪・池田



宿舎の前で黙とうを捧げる広陵の選手ら＝2018年8月6日午前8時15分、大阪府池田市、新谷千布美撮影

平和だからこそ野球ができる。第100回全国高校野球選手権記念大会に広島代表で出場している広陵の選手らが、大阪府池田市の宿舎前で整列し、広島の方角を向いて黙禱(もくとう)をした。(新谷千布美)

広島市長が平和宣言読み上げ(8:16)

広島市の松井一実市長は、平和宣言を読み上げた。「人類は歴史を忘れ、直視することを止(や)めた時、再び重大な過ちを犯してしまう」と訴えた。

原爆投下時刻、参列者が黙とう(8:15)



被爆

した義理の祖母の冥福を祈りに来た立地陽子さん(62)と息子の仁さん(31)。「今日は広島にとって忘れられない日。3年前に毎年一緒に祈りに来ていた主人の母親も亡くなりました。来年は孫を連れて祈りに来ます」と話した＝2018年8月6日午前6時17分、広島市中区の平和記念公園、小川智撮影

73年前のこの時間、広島市上空で原爆が炸裂(さくれつ)した。人類史上初めて、市民の頭上に投下されたのだ。

広島市によると、原爆による死没者は今年8月5日現在で計3万4118人。平和記念式典では、名簿の収められた原爆死没者慰霊碑の前で参列者が黙とうを捧げた。平和記念式典始まる(8:00)

原爆投下から73年の8月6日。平和記念式典が始まった。



日の出

から間もない早朝から大勢の人たちが慰霊に訪れていた＝6日午前5時40分、広島市中区の平和記念公園 観測機、広島上空に飛来(7:09)

73年前のきょう8月6日午前7時9分。1機の気象観測機が広島上空に飛来した。太平洋戦争の激戦地、サイパン島の隣島テニアン(テニアン)の基地からアメリカのB29爆撃機がその後を追っていた。機長の母の名で呼ばれた「エノラ・ゲイ」。機内には重さ4トン、全長3メートルの原子爆弾「リトルボーイ」が積まれていた。

広島原爆はウラン235という核分裂物質が使われ、爆発時のエネルギーは火薬の爆弾1万5千トン分に匹敵する。長崎で8月9日に投下されたプルトニウム原爆「ファットマン」とは形も中身も違い、アメリカは2種類の原爆を試

したかったともいわれている。



スミソニ

アン航空宇宙博物館の分館に展示されている「エノラ・ゲイ」=米バージニア州シャンティリー、ランナム裕子撮影

広島には5日夜から6日朝にかけて警戒・空襲警報が出されていた。午前7時31分に観測機が去ると、解除され、安心した市民はいつもの生活に戻っていた。

6日午前8時の広島市の気温は26・7度。観測機は「天気も良好で爆撃可能」とエノラ・ゲイに伝えた。周りの都市のように空襲を受けてこなかった街は、無警戒に近かった。

平成最後の8月6日を迎えて

昇る陽（ひ）がまぶしさを増し、乱反射した白い光が広島を包む。73年前のきょうも、空は晴れ渡っていた。道行く人たちは、半袖から突き出した腕をじりじりと太陽に焼かれながら、職場や学校へと向かっていただろう。

午前8時15分。閃光（せんこう）が走り、熱線と爆風が、街を壊滅させた。たった一発の原子爆弾が、多くの無辜（むこ）の命を奪った。



原爆投下直後、広島上空に上がるキノコ雲。手前は瀬戸内海=米軍撮影

被爆地となった広島は73年後の今年夏、未曾有の豪雨災害の被災地になった。山裾の家々は土砂に押し流され、県内だけで死者は100人を超えた。平成最後の8月6日は、被災1カ月と重なった。

ただ、この街は幾度も困難から立ち上がってきた。

過去と現在。時を超えて人々を結ぶのは、あの日の記憶と平和への思い。一つの時間軸にさまざまな事象を刻みながら、広島の特別な一日をたどる。（石木歩）

### 【後編】平成最後の8・6の夜、平和祈る1万の灯火

朝日新聞デジタル 2018年8月6日 22時19分



原爆ドームの前を

流れる元安川に灯籠（とうろう）を流す人たち=2018年8月6日午後7時36分、広島市中区、小林一茂撮影

被爆73年を迎えた広島。6日午前の平和記念式典には、被爆者や遺族など約5万人が参列し、平和への思いを新たにしました。式典が終わっても、平和記念公園には世界中から人が集っている。午後各地の「原爆の日」を追う。

願い込めた灯籠、川面に（19：40）

広島市中区の原爆ドーム近くを流れる元安川。今年も亡くなった被爆者らを弔う灯籠（とうろう）流しがあり、約1万個が川面をゆっくりと流れていった。

灯籠の火は、福岡県八女市星野村に保存されている原爆投下直後の「残り火」から採火している。

「平和な世界が続きますように」「子どもたちに輝く未来を」――。川沿いには多くの人が訪れ、それぞれの願いを込めて書いた灯籠を流し、静かに手を合わせて黙禱（もくとう）していた。（原田悠自）

ピースライン、球場にくっきりと（19：30）



キャンドルに火を

とます、2018年度にカープに入団した選手たち=6日午後7時24分、広島市南区、高橋俊成撮影

73回目の慰霊の夜を迎えた広島。6日夜、広島市のマツダスタジアムで原爆ドームと同じ高さの25メートル付近に並べた約1800個のキャンドルが準備された。

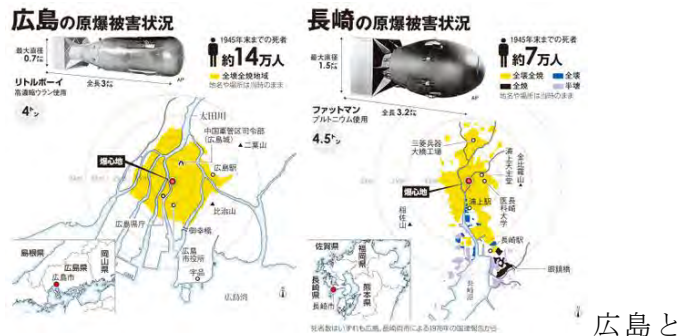
スタジアムを拠点とする広島カープの選手や大学生らが点灯。「ピースライン」がくっきりと浮かび上がった。参加した地元・広陵高出身の中村奨成選手は「プロになって初めての『8・6』ということで自分に何か出来ないか考え

た。野球で広島のみなさんに元気を与えたい」と語った。  
(高橋俊成)

被爆者数15万4千人、平均年齢は…(数字で読む原爆)

厚生労働省の2018年3月のまとめでは、被爆者数は【15万4859人】。平均年齢は【82・06歳】。1980年度には【37万2264人】だった。

直接被爆した1号被爆者は【9万6365人】、原爆投下後に広島市に入って被爆した2号被爆者【3万4257人】、被爆者を救護するなどして被爆した3号被爆者が【1万7176人】、母親の胎内で被爆した4号被爆者が【7061人】。



### 長崎の原爆被害状況

都道府県別で見ると、広島県が【7万220人】(広島市=5万384人)、長崎県【4万449人】(長崎市=2万9064人)、福岡県【5892人】、東京都【5203人】、大阪府【5083人】と続く。

海外で暮らす在外被爆者は、31カ国・地域に【3123人】おり、韓国が【2241人】、米国が【667人】、ブラジルが【95人】となっている。

原爆が落とされた1945年の年末までに、広島では【約14万人】、長崎では【7万4千人】近くが亡くなったといわれている。(宮崎勇作)

山本浩二さん兄、73年ぶり母校へ(17:00)



己斐小学校の校庭の

端にある、被爆者の慰霊のモニュメントを見つめる山本宏さん=2018年8月6日午後5時15分、広島市西区、橋本拓樹撮影

元広島カープの山本浩二さん(71)の兄、宏さん(80)は午後5時過ぎ、慰霊式典に参加するため、73年ぶりに母校の広島市立己斐小学校(旧己斐国民学校)を訪れた。校庭で大勢の遺体を焼く臭いが充満していたことがトラウマとなり、これまで来られなかった。「土を触ってみても、案外何の気持ちも湧かない。それくらい、当時の面影が消えてしまったんでしょうね」(橋本拓樹)

外国人観光客「戦争は嫌だ、我々はみな家族」(15:00)

広島には毎年、多くの外国人観光客が訪れている。8月6日も平和記念公園などで多くの外国人の姿があった。

平和記念公園にかかる本川橋近くに置かれた大きな世界地図の下に、英語で「どこから来ましたか」の文字。地図の様々な場所に赤、黄、緑のシールが並ぶ。地図の右下にシールを貼ったのは、チリから訪れたジョナサン・ガルビゾさん(27)。「もう戦争は嫌だ、我々はみな家族なんだ」と話した。



地図にシールを貼るチリ人のジョナサン・ガルビゾさん(右)と友人=6日午後、広島市中区、土屋香乃子撮影

この日早朝には、引き取り手のない約7万柱の遺骨を納めた平和記念公園内の原爆供養塔前で神道、キリスト教、仏教の順で、宗教者が祈りを捧げた。約400人が参列した。アメリカ・ワシントンから初めて広島を訪れたという大学生のエリ・ブルームバーグさん(22)は「アメリカ人として原爆投下の結果を知ることが必要だと考え、広島に来た」と声を詰まらせた。

この日午後、在日コリアンの権(クォン) 鮎美(チョンミ)さん(50)は韓国人原爆犠牲者慰霊碑の前で、手作りのチマを着て韓国舞踊を1人で静かに踊った。「碑から『みんな仲良く生きて。子どもたちの未来をつくっていくのは愛と平和とそれを祈る気持ち』と言われてるんです」(土屋香乃子、宮崎園子、大滝哲彰)

I CAN川崎氏「私たちは黙っているのか」(13:30)



「核兵器

禁止条約について多くの方に知ってもらい、議論しなければならない」と話すICANの川崎哲氏＝6日午後、広島市中区、半田尚子撮影

核兵器の使用や製造を禁止する核兵器禁止条約が国連で採択されたのが2017年7月。その年の12月、条約採択に尽力した国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)がノーベル平和賞を受賞した。しかし、被爆地の願いでもある核廃絶の歩みは遅々として進んでいない。

この日、ICAN国際運営委員の川崎哲さん(49)が広島市中区の広島大学東千田キャンパスで講演会を開いた。約120人が耳を傾けた。核兵器禁止条約の発効には50カ国の署名・批准が必要だが、日本政府は見送ったままだ。

川崎さんは「国際社会が動いているときに私たちは黙っているのか。この条約の存在を知ってもらって、日本がまだ参加していないという事実を知っていただきたい」と訴えた。(半田尚子)

のんさん、広島で舞台あいさつ「心配していた」(12:30)



舞台あい

さつをするのんさん＝2018年8月6日午後0時41分、広島市中区、永野真奈撮影

俳優ののんさんが8月6日の広島で舞台あいさつ——。戦時下の広島・呉を舞台にしたアニメーション映画「この世界の片隅に」(片渕須直監督)を上映している広島市中区の映画館に、主人公「すず」の声を演じたのんさんと片渕監督が登場した。

この日午前の平和記念式典に参列したのんさんは「すずさんを演じて、戦争に目を向けていかないと、という気持ちになった」と話した。



舞台あいさつをす

るのんさん＝2018年8月6日午後0時31分、広島市中区

のんさんはまた、西日本豪雨の被災地への気遣いも見せた。観客に向かって、「(豪雨の)大きな被害に遭われていて心配していたので、今日はおじゃまさせていただいて、皆さんの顔を見られたら良いなあと思っていました」と語りかけた。

舞台の幕が上がると、観客からは「おかえりなさい！」という声や大きな拍手がわき起こり、のんさんと片渕監督は笑顔で何度も頭を下げた。(永野真奈)

長崎の鐘、平和の響き(11:02)



平和

への願いを込めて多くの人が「長崎の鐘」を鳴らした＝2018年8月6日午前11時2分、長崎市松山町

73年前、広島に投下された3日後、長崎に原爆が落とされた。

長崎市の平和公園ではこの日、長崎に原爆が投下された午前11時2分、すべての犠牲者を悼み、平和を願って「長崎の鐘」が鳴らされた。

平和団体が公園を訪れた市民らに呼びかけ、6日から9日まで毎日鳴らす。横浜市から来た中学2年、佐藤歌音さ



ん（13）は「鐘を引くひもは重かったけど、それ以上に戦争の悲惨さを考え、心で平和の重みを感じました」と話した。（弓長理佳）

首相、核禁条約めぐり被爆者代表と平行線（10：48）

「思い出すことはつらかったと思いますが、体験をここを訪ねる子どもたちに伝えてこられた。皆さまの努力が核なき世界に結実するように、我々も全力を挙げなければならない」

広島市で平和記念式典に参列した安倍晋三首相はその後、同市東区の前原養護ホーム「神田山やすらぎ園」を慰問。約30人の被爆者を前にこう語り、「お元気で」と声をかけた。



あいさつを終え、席に戻る

安倍晋三首相を見る遺族ら＝2018年8月6日午前8時36分、広島市中区、小林一茂撮影

慰問に先立ち、首相は広島市中区のホテルであった「被爆者代表から要望を聞く会」に出席。7人の代表とテーブルを挟んで向かい合った。

正面に座った広島県原爆被害者団体協議会の坪井直理事長はこう訴えた。「原爆というのはね、人間の悪知恵で作ったもん。人間が作ったんだから、人類が解決しないといけない。あの世へ行く気がしません」

広島被爆者団体連絡会議の吉岡幸雄事務局長は、昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約への署名と批准を要求。原爆死没者慰霊碑の碑文「安らかに眠って下さい 過ちは繰返ませぬから」を引き、「政府の態度は、碑文の誓いに背くもの」と批判した。

一方、首相は核禁条約は「アプローチは異なるものの、条約がめざす核兵器廃絶という目標は共有している」。核兵器国と非核兵器国の「橋渡し役を担う」と述べ、署名や批准は行わない姿勢を改めて示した。

安倍首相への手紙（田井中雅人記者コラム）

内閣総理大臣 安倍晋三様

広島平和記念式典でのあいさつで、あなたは昨年に続き、今年も核兵器禁止条約に一切触れませんでした。「核兵器使用の犠牲者（ヒバクシャ）と核実験被害者の受け入れがたい苦痛と被害を心に留める」とうたった条約が122カ国の賛成で採択されてから1年余り。被爆地には怒りと落胆が広がっています。

式典後、被爆者代表の要望を聞く会で、あなたは条約に署名・批准する考えはないとの立場を改めて示しました。昨年、「満腔（まんこう）の怒り」を表明した広島被爆者団

体連絡会議の吉岡幸雄（ゆきお）事務局長（89）はこう嘆いています。「昨年と同じことですよ。全然受け入れられるような状況じゃない。わが国は被爆国だということを根っこに持ってほしい」

条約に背を向け続ける、あなたのかたくなな姿勢は、式典あいさつで誓われた「橋渡し役」を果たすには不適格と映ります。

残念ながら、渡す「橋」の軸足が「核の傘」を差し掛ける同盟国・米国側だけに置かれていることが、国際社会にも被爆地にも見透かされているようです。核兵器の非人道性の象徴である核被害者に、もっと寄り添う姿勢を示すことが、実質的な「橋渡し役」の条件ではないでしょうか。

核禁条約のモデルとなった対人地雷禁止条約やクラスター爆弾禁止条約では、日本政府は米国の反対を押し切って署名・批准しました。それぞれ当時の小渕恵三外相、福田康夫首相の人道的な政治決断でした。

最後に、条約を5月に批准し、きょうの広島での式典に参列したオーストリア外務省のトーマス・ハイノッチ軍縮・不拡散局長からのメッセージを記します。

「オーストリアは憲法で核兵器を禁止しているので、核禁条約もスムーズに批准できました。もちろん条約に参加するかどうかは日本政府と国民が決めることですが、大いに関心を持っておられることは承知しています。条約はすでに国際社会で現実のものとして受け入れられつつあり、発効は時間の問題ですよ」

合わせて、こちらもお読みいただくと幸いです。

<http://webronza.asahi.com/politics/articles/2018080100008.html>

（核と人類取材センター・田井中雅人）

夾竹桃の物語、紙芝居初披露（10：30）



「夾竹桃物語」の紙芝居を披露する子供たち＝2018年8月6日午前11時33分、広島市中区、小池寛木撮影

原爆で被爆した動植物を描いた絵本「夾竹桃（きょうちくとう）物語」の紙芝居が、広島市内で開かれた読書感想文コンクールの授賞式で初披露された。

「夾竹桃物語」は原爆投下で燃えたキョウチクトウを被爆した犬たちが身をていして消し止めた、という物語。広島市の弁護士で墨絵詩人、緒方俊平さんが2000年に出版した。



紙芝居「夾竹

桃物語」のワンシーン

絵本の世界をより多くの人たちに伝えようと、コンクールを主催する事務局が紙芝居を発行した。全19枚の紙芝居は今後、4千冊を全国の学校や図書館に寄贈する予定だ。

感想文コンクールは今年で18回目。小中学生対象に全国から3138点の応募（作文・絵画・書道の各部門）があり、入選者46人のうち、43人が広島に招かれた。文部科学大臣奨励賞を受賞した大船渡市立第一中学校2年の島山公君は「原爆や平和について、もっと学び、もっと知りたい」と話した。（小池寛木）

韓国人被爆者、現地で追悼式@ソウル

日本統治時代に広島や長崎で被爆した韓国人被爆者を追悼する式典が6日午前、ソウル市道峰（トボン）区の区民会館であった。被爆者とその家族ら約200人が出席。平和の鐘を鳴らし、犠牲者の位牌（いはい）を据えた祭壇に祈りを捧げた。日本大使館の職員も出席した。



韓国人原爆犠牲

者追悼式で献花する被爆者ら＝6日、ソウル市道峰区、武田肇撮影

式典を主宰した韓国原爆被害者協議会によると、韓国在住の被爆者は約2500人で、うち約550人がソウルで暮らす。生後4カ月で広島で被爆した李基烈（イギョル）・同協議会支部長（73）は、韓国政府が今夏初めて在韓被爆者の実態調査に乗り出したことを明らかにした。

協議会は日本政府に対し、日本人被爆者と同様の援護措置を求めるとともに、反核平和運動に取り組んできた。日本兵として広島にいて被爆した郭貴勲（カクキフン）さん

（94）は「今年の南北首脳会談や米朝首脳会談は、核なき世界を願う韓国の被爆者にとって良いニュース。ただ、実際の達成まで、まだまだ時間がかかりそうだ」と話した。

日本大使館からは村上学参事官ら3人が出席。大使の追悼の辞を代読し、「世界に再び原爆による被害者が出るような不幸が繰り返されることがないように、平和の誓いを新たにします」と述べた。同様の追悼式は6日午前、広島被爆者が多く暮らすことで知られる慶尚北道陝川（ハプチョン）でも開かれた。（ソウル＝武田肇）

原爆の残り火、今も燃える@福岡・八女



広

島原爆の残り火をともし続ける「平和の塔」に献花する平和祈念式典の参加者＝2018年8月6日午前9時14分、福岡県八女市星野村、佐々木亮撮影

73年前に広島の焼け跡から持ち帰られた原爆の残り火が「平和の火」として今も燃える福岡県八女市星野村の「星のふるさと公園平和の広場」で、市主催の平和祈念式典があった。原爆投下時刻にあわせ、参加者が黙禱（もくとう）した。

火は地元出身の山本達雄さん（2004年に88歳で死去）が広島に住んでいた叔父の遺骨代わりに持ち帰り、自宅でもし続けた。山本さんにとって当初は「うらみの火」だった。だが、「うらんでばかりでは世界は平和にならない」との思いから、「平和の火」へと変化した。1968年に星野村（現・八女市）に受け継がれ、今年で50年となる。

式典には広島市の松井一実市長が「絶対悪である核兵器の廃絶と平和の実現に向け共に力を尽くし、行動して下さることを期待しています」とメッセージを寄せた。星野小6年原口ひなのさんが「この先の未来へ永遠にともし続けられるよう努力したいです」という「平和の誓い」を述べた。（佐々木亮）

小中学校では「8・6登校日」@広島県内



平和記念式

典のテレビ中継を見る児童＝6日午前8時10分、広島市中区の白島小学校、原田悠自撮影

広島県内の公立小中学校では、8月6日を平和学習の日として登校日にするところが多い。夏休み中のこの日、学校には子どもたちの元気な声が響いた。

平和記念式典の開かれた広島市の平和記念公園の北東約1キロに位置する白島（はくしま）小学校（同市中区）では、児童約400人が式典のテレビ中継を見て、午前8時15分から1分間黙禱（もくとう）。その後、被爆者の講演に耳を傾けた。

6年生の高下紘夢（こうげひろむ）君（11）は「多くの人が平和について考える8月6日は、広島にとって特別な日。戦争は二度と繰り返してはいけなくて改めて実感しました」と話していた。

これまで市の教職員の勤務は広島県条例に基づいていたが、昨年に権限が県から市に移管。市条例では8月6日が「市の休日」のため教職員が出勤できず、別の日を登校日にするなどした。このため、市は今年度、登校日を各校の判断に委ねる「臨時の学校行事」と位置づけ、8月6日に登校できるようにしたという。（原田悠自）

#### 平和への祈り、豪雨被災地でも 「水害も原爆も二度と」

朝日新聞デジタル高橋俊成、光墨祥吾 高橋俊成、光墨祥吾、大滝哲彰 2018年8月6日17時30分



慰霊式を前に、原爆慰霊碑を

拭く西谷敏樹さん＝2018年8月6日午前7時33分、広島県坂町、上田潤撮影



広島県内の各地で西日本豪雨災害の傷痕が残るなか、迎えた「原爆の日」。被爆者たちはそれぞれの場所で、平和を祈った。

6日の朝、広島県坂町のJR呉線小屋浦駅に近い原爆慰

霊碑に、被爆者や遺族ら20人が集まった。原爆投下時刻の午前8時15分に手を合わせた。

西日本豪雨で背後のがけが崩れ、慰霊碑は大量の土砂や倒木に埋もれた。土砂を取り除くと、幸い碑に大きな損傷はなかった。

1987年に建立された碑には、93人の名前が刻まれている。原爆で広島市中心部は壊滅。爆心地から10キロほど離れた小屋浦にできた臨時救護所に運ばれて、亡くなった人たちだ。

近くに住む西谷敏樹さん（72）は「戦争のむごたらしさを後世に伝えたい」と考え、3年前から慰霊碑を管理してきた。

原爆投下の翌日、小屋浦から比治山（現・広島市南区）の実家へ向かった母親の胎内で被爆した。「両親からよく聞かされた。死体のおいしが充満し、生き地獄のようだった、と」

支部長を務める「坂町原爆被害者の会」は、高齢化と後継者不足で7月に解散した。町内の別の場所で毎年開いてきた100人規模の慰霊式も取りやめた。

今回の被災で慰霊碑も土砂に埋もれてしまったのを見かね、かつて碑を建立した同県海田町の田川房雄さん（77）が2日間かけて重機で土砂をかき出した。「奇跡じゃよ。あれだけの土砂崩れで無事だったんじゃない」と喜ぶ。「この下に眠る方の思いが慰霊碑を守ってくれたんじゃないわね」

きれいになった碑の前で6日に慰霊式をしたいと、支部のメンバーに呼びかけた西谷さん。「この日には手を合わせたいという気持ちがあった。こうして集まれて本当にうれしい」。2歳で入市被爆した同じ小屋浦の二川（にかわ）清司さん（75）は感慨深げに話した。西谷さんも「若い人たちとも一緒になって、碑を守っていきたい」と話していた。（高橋俊成、光墨祥吾 高橋俊成、光墨祥吾）

「穏やかな日々に戻りたい」

坂町小屋浦の被爆者川崎友義さん（86）の自宅は、西日本豪雨で半壊した。午前8時15分、避難所になった町内の福祉施設で黙禱（もくとう）し、原爆と豪雨災害の犠牲者たちを追悼した。

広島二中（現・広島観音高）の2年生だった1945年8月6日朝、ひどい腹痛で広島市内での勤労作業を休んだ。自宅にいと大きな爆発音がして、海の向こうにキノコ雲が見えた。市中心部の建物疎開に出かけた1年生は、320人以上が犠牲になった。

翌朝、おばの安否を確かめに市内に入り被爆した。赤ん坊を抱えた女性の遺体を目にし、「あの光景は今でも忘れない」と話す。

翌9月には、3756人の死者・行方不明者を出した「枕崎台風」が小屋浦も襲った。目の前の天地（てんち）川があふれ、自宅は腰の高さまで水につかった。母と姉、弟の4人で隣人宅に避難した。

そして先月の6日。天地川の氾濫（はんらん）で自宅に土砂と濁流が流れ込んだ。何も持たずに、隣の息子宅の2階に妻と避難した。「窓のすぐ下まで水が迫っていて怖かった」。小屋浦では、15人が亡くなり、1人の行方が分からない。

自宅にはまだ多くの土砂がたまっている。「原爆も水害も、もう二度と経験したくない。早く穏やかな日々に戻りたい」と話した。（高橋俊成、光墨祥吾 高橋俊成、光墨祥吾、大滝哲彰）

首相官邸平成30年8月6日

#### 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式あいさつ

一発の原子爆弾が、街を瞬時に破壊し、十数万ともいわれる貴い命を奪いました。あれから73年、一命をとりとめた方々にも、筆舌に尽くし難い苦難の日々をもたらしました。若者の夢や明るい未来が容赦なく奪われました。

原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊（みたま）に対し、謹んで、哀悼の誠を捧（ささ）げます。

そして、今なお被爆の後遺症に苦しまれている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

広島、長崎の悲劇を再び繰り返してはならない。唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向けて、粘り強く努力を重ねていくこと。それは、我が国の使命です。

近年、核軍縮の進め方について、各国の考え方の違いが顕在化しています。

真に「核兵器のない世界」を実現するためには、被爆の悲惨な実相の正確な理解を出発点として、核兵器国と非核兵器国双方の協力を得ることが必要です。我が国は、非核三原則を堅持しつつ、粘り強く双方の橋渡しに努め、国際社会の取組を主導していく決意です。

その具体的な取組として昨年、核軍縮に関する「賢人会議」を、ここ広島で開催しました。

「賢人会議」を通じて有識者の知見も得ながら、核兵器不拡散条約（NPT）発効50周年となる2020年のNPT運用検討会議が意義あるものとなるよう、積極的に貢献してまいります。

また、その非人道性を、後の世に、また世界に、伝え続ける務めが我々にあります。

若い世代が、被爆者の方々から伝えられた被爆体験を語り継ぐ。

政府として、そうした取組をしっかりと押し進めてまいります。

被爆者の方々への援護施策については、保健、医療、福祉にわたる支援の必要性をしっかりと受け止め、被爆者の方々に寄り添いながら、今後とも、総合的に推進してまいります。特に、原爆症の認定について、引き続き、一日も早く結果をお知らせできるよう、できる限り迅速な審査を

行ってまいります。

結びに、永遠の平和が祈られ続けている、ここ広島市において、「核兵器のない世界」と恒久平和の実現に向けて力を尽くすことをお誓い申し上げます。原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、ご遺族、被爆者の皆様、並びに、参列者、広島市民の皆様のご平安を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

平成30年8月6日

内閣総理大臣・安倍晋三

#### 池上彰さんと考える 「原爆の日」と非核化

NNN2018年8月6日 21:22

豪雨災害から1か月たった6日。広島はこの日、原爆投下から73年を迎えた。今年も、広島の平和記念公園にいる池上彰さんと考える。

豪雨災害から1か月たった6日。広島はこの日、原爆投下から73年を迎えた。今年も、広島の平和記念公園にいる池上彰さんと考える。

◇◇◇

広島に原爆が投下されて73年。被爆者の高齢化が進んでいます。実は、私が3年前に取材した方が、今年、亡くなられたんです。河内光子さんです。河内さんは、爆心地1.6キロの勤務先で被爆しました。被爆の実態を伝える大変有名な写真なんですが、この後ろ姿のセーラー服が河内さんなんです。河内さんは、実は被爆体験をずっと話すことがなかったというんです。どうしてか。それは、親友たちがみんな原爆で亡くなってしまったのに、自分だけ生き残ってしまった、そんな思いがあって、なかなか被爆体験を話すことが出来なかったというんですね。

ところが、高齢化が進んで次々に被爆者が亡くなっていく。いま、この話を伝えなければいけないんだ、という思いで、3年前に私に話してくださいました。その河内さんも亡くなった、ということで、本当にこの被爆者の体験を次の世代に伝えていく、大変大きな課題を、私たちは背負っているわけです。

そして、今年、米朝首脳会談が6月に開かれました。

■池上さんは、あの首脳会談をどう見ましたか。

トランプ大統領だから実現した、ということは確かですよ。そういう意味では確かに、画期的でした。そして、首脳会談の後、トランプ大統領は「画期的な成果をあげた」と自画自賛していたんですが、さあでは、具体的に何がまとまったのか、あるいは何が進んでいるのか、というと、ちょっとクエスチョンマークがついてしまうんです。当時、米朝首脳会談でどんな合意があったのか、振り返ってみましょう。

まずは新たな米朝関係。そして、平和体制の保証。これはつまり、北朝鮮の体制をアメリカとして保証する、という意味でした。あるいは、朝鮮半島の完全な非核化。ただ

しこれも、当初は北朝鮮の非核化だったんですが、いつの間にか、韓国や在韓米軍も含めた完全な非核化というふうに、非常にあいまいな形になってしまいました。そして、朝鮮戦争、アメリカ兵の遺骨返還。ということですが、北朝鮮にしてみれば、アメリカ兵の遺骨を返還するから、朝鮮戦争の「終戦宣言」を求める。しかしアメリカとしては、いやいや、「完全な非核化」が先なんだよ、というわけで、いまま双方の綱引きが行われているわけです。

■今後、北朝鮮の非核化はどうなっていくのでしょうか。これから注目される日程というのがございます。

9月11～13日に『東方経済フォーラム』というのが、ロシアのウラジオストクで開かれます。これ実は、プーチン大統領が正恩委員長を招待しているんです。そして、ウラジオストクといいますと、北朝鮮から近くて「陸路」で行くことが出来る。となりますと、金委員長が来るかもしれない、というわけですね。

■金委員長が国際舞台に出てくるということは、大きな進展が期待できるものなのでしょうか。

そうですね、何といっても北朝鮮という国は、金委員長の判断で動く国ですね。金委員長の鶴の一声で動いていく、ということです。もし『経済フォーラム』というところに来ますと、当然、経済開発について話し合うわけです。北朝鮮としては、経済制裁を解除してほしい。そして、経済を開発するんだよ、そうすると、中国やロシアなども投資が出来るんだよ、という、北朝鮮としてはそういうふうな話を持っていこうとするということが予想されます。

トランプ大統領は、いつも色んなツイッターをしているんですが、先週、こんな投稿をしました。

——金正恩委員長、約束を守り、米兵遺骨を愛する家族に返してくれてありがとう。近いうちに会うことを楽しみにしている。

ということは、近々、改めて米朝首脳会談があるかもしれない。そうなれば、もう少し具体的な話になるかもしれない、という点で、注目されているんです。

そして、こうした動きは当然のことながら、日本も関係してきます。米朝首脳会談の後、この人の発言をご覧ください。

トランプ大統領（今年6月）「(非核化の費用は)韓国、日本が支援するだろう。彼らは支援しなければならないことを知っている。アメリカが支援する必要はない」

“北の非核化にかかる費用は、日本と韓国が負担する”と、トランプ大統領は発言したんですね。

■なぜ日本と韓国が負担するのでしょうか？

これは納得できないという方も多いと思うんです。ですが、トランプ大統領、アメリカは出さないとはいっていますでしょう。アメリカファーストの人としては、出す気がないわけですね。一方で、北朝鮮は非核化のお金がない。ということとなりますと、北朝鮮の核の脅威を感じている日本と

韓国が負担しろ、という流れになってくるわけですね。

日本政府としても、地域の安全につながることで、自分の負担はやむを得ない、こういう判断なんです。

■費用はどれくらいになりそうなんですか？

気になりますでしょう、これ。もちろんわからないんですが、一部の専門家は、「数百億円では足りないのではないかと、数千億円単位になるのではないかと」分析しているんです。あるいは、技術者を派遣することも内々に検討が行われています。と言いますのも、日本はいま、福島原発の「廃炉」に取り組んでいますし、すでに廃炉が決まって、廃炉のために色んな作業をしてきたところもあるわけです。それなりの技術の蓄積があります。となりますと、それを使って北朝鮮の非核化に貢献できるのではないかと、ということなんです。

■現在の世界の核兵器は…

では改めて、世界全体の核兵器はどうなっているのか。世界中で依然として1万4000発以上もあるわけです。核兵器を持っているとされる国は9か国です。そして、アメリカとロシアは「減らそう」という方向になっている中で、トランプ大統領は「核戦力を拡大する」という発言を一時、していました。

しかし、7月、フィンランド・ヘルシンキでロシアのプーチン大統領との会談で、核兵器を減らしていこう、という「核軍縮」の話をした。ただ、具体的な話まで進まなかった、というのは、いかにもトランプ大統領らしいんですが、この動きによって、少しでも非核化につながれば、と期待するしかない。

## 米高校生2人が被爆地見学 長崎・元平和大使が招待

日経新聞 2018/8/7 9:44

米ハワイ州ホノルルの私立校「イオラニ・スクール」の女子高生2人が7日、国連機関に核廃絶署名を届ける「高校生平和大使」を経験した京都市の大学生らの案内で、長崎市の原爆資料館を見学した。太平洋戦争を巡る相互理解を深めるために2月、元平和大使として同校を訪問した大学生らが「被爆の実相に触れてほしい」と招待した。



長崎市の原爆資料館で原爆の模型を見つめるブルーク・ボルトンさん（左）ら（7日午前）＝共同

2人はいずれも高校3年のブルーク・ボルトンさん（17）とメーガン・タガミさん（17）。今月6日に初来日した。

2016年に平和大使を務めた京都市の大学1年、安野伊万里さん（18）によると、2人は滞在中、被爆者の体験を聞くほか、「原爆の日」の9日には爆心地公園を訪れ、今年の平和大使らと集会に参加。11日に広島に移動して原爆ドームなどを見学し、12日に日本を離れる。

資料館で2人は、安野さんらの説明にうなずきながら、被爆者の姿を撮った写真や原爆の模型を食い入るように見つめていた。

ボルトンさんは、炭化したコメが付着した女学生の弁当箱が強く印象に残った様子。「いろいろな人が長崎を訪れてほしい。家族や友人に、資料館で見たことを伝えたい」と語った。安野さんは「若者同士の小さな交流が広がり、日米友好が深まればいい」と願った。〔共同〕